

令和9年度

茨城県立医療大学大学院
保健医療科学研究科の概要

【博士前期課程】

保健医療科学専攻

【博士後期課程】

保健医療科学専攻

茨城県立医療大学

目 次

【博士前期課程】

1	理念・目的	1
2	学生定員	1
3	修業年限	1
4	学 位	1
5	教育課程等	1
	(1) 教育目標	1
	(2) 特 色	1
	(3) 履修基準	3
	(4) 修了要件	5
	(5) 各領域における授業科目及び履修例	
	・看護学領域	6
	・理学療法学領域	8
	・作業療法学領域	9
	・放射線技術科学領域	10
	・医科学領域	11
6	講義等の内容	
	・基礎科目	12
	・看護学領域応用科目	14
	・理学療法学領域応用科目	25
	・作業療法学領域応用科目	27
	・放射線技術科学領域応用科目	29
	・医科学領域応用科目	32
7	指導教員と研究概要	35

目 次

【博士後期課程】

1	理念・目的	42
2	学生定員	42
3	修業年限	42
4	学 位	42
5	教育課程等	42
	(1) 教育目標	42
	(2) 特 色	42
	(3) 履修基準	44
	(4) 修了要件	44
	(5) 各領域における授業科目及び履修例	46
6	講義等の内容	49
7	指導教員と研究概要	58

【博士前期課程】

1 理念・目的

茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科博士前期課程保健医療科学専攻は、人間性の尊重を基本として、保健医療に関する学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力等を養い、学術文化の発展に寄与することを目的とする。専門分野における基礎的研究能力を備え、地域の保健医療の質的向上等に寄与できる専門職を育成し、同時に各学問領域の基盤形成を目指す。

2 学生定員

専攻	領域	入学定員	収容定員
保健医療科学専攻	看護学 理学療法学 作業療法学 放射線技術科学 医科学	18名	36名

3 修業年限

2年

4 学位

看護学領域	修士（看護学）
理学療法学領域	修士（理学療法学）
作業療法学領域	修士（作業療法学）
放射線技術科学領域	修士（放射線技術科学）
医科学領域	修士（医科学）

5 教育課程等

(1) 教育目標

本大学院博士前期課程では、以下に示す人材を育成する。

<育成する人材像>

- (ア) Society5.0社会を力強く生きる高度医療専門職業人と知的素養豊かな地域の人材の養成、および本学の潜在的教育研究環境のメリットを活かした人材の育成
- (イ) 医学医療系を中心とする学問分野横断的共創と、地域における医療系の多職種協働を推進する人材の育成
- (ウ) これらの学際的教育研究と社会実装を視野に入れた地域貢献のための自己発展性豊かな人材の育成

(2) 特色

<教育課程編成の考え方>

本大学院では、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

1. 保健医療分野、関連する学際分野、融合分野に必要な専門的知識と研究能力を獲得するため、「基礎科目」と「応用科目」の2つの基本的枠組みをもって体系的にカリキュラムを構成する。

2. 保健医療科学全般において共通基盤となる視点や能力を涵養し、幅広く深い教養と分野横断的な研究の創出への意欲を育成するため、「基礎科目」を開設する。
3. 領域ごとに深い高度な専門知識を修得できる「応用科目」を開設する。
4. 広い視野や複眼的思考能力を身に付けるため、学生の希望に応じて、専門領域以外の「応用科目」の履修を可能とし、複数領域の高度な専門的知見に触れる機会を提供する。
5. 複雑化する保健医療の課題発見能力や課題解決能力の涵養のため、研究指導は、主指導教員と専門の異なる副指導教員との複数指導で行う「特別研究」を開設する。

<科目の区分及び科目の概要>

ア 基礎科目は、保健医療科学専攻の5つの領域（看護学領域、理学療法学領域、作業療法学領域、放射線技術科学領域、医科学領域）すべての大学院生を対象として、保健医療科学専攻における学問領域横断的共創のプラットフォームとなる専門的知識、論理的かつ批判的思考力、多職種でのコミュニケーション能力などを高い水準で身につけることを目的として開設する。

イ 看護学領域では、教育研究区分である基礎看護学区分（基礎看護学、看護管理学）、地域看護学区分、臨床看護学区分（母性看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学）のいずれかの分野で修士論文を作成するコース（修士論文コース）と、臨床看護学区分において小児看護学、老年看護学及び精神看護学の専門看護師を目指すためのコース（CNSコース）の2コースを設けています。

看護学領域の専門科目は、「看護学共通科目」と「領域別専門科目」に分け、看護学共通科目では、各教育研究領域に共通の基礎となる「看護理論」「研究計画法と研究倫理」等の科目を指導教員の指定又は選択により履修し、分野別専門科目では、指導教員の指導により講義及び演習を系統的に履修し、専門分野の研究能力を高めます。

ウ 理学療法学領域の専門科目では、理学療法学の理論的、実証的研究を行い、それぞれの分野の知識の深化と技術開発力の育成を目指します。各障害の理学療法から生活支援、障がい者スポーツ、地域リハビリテーションまで理学療法に関連する幅広い視点の研究能力を高めます。さらに、リハビリテーション教育学特論を配置し、教育者としての理論や実践を学修します。

エ 作業療法学領域の専門科目では、作業療法学の理論的、実証的研究を行い、それぞれの分野の知識の深化と技術開発力の育成を目指します。専門科目の構成として、活動障害の解析・評価から治療・介入の方法論、地域支援まで作業療法の一連の過程を学修する教育課程としています。さらに、リハビリテーション教育学特論を配置し、教育者としての理論や実践を学修します。

オ 放射線技術科学領域では、実践技術学分野と医学物理学分野（MPコース）の2分野を設けています。

実践技術学分野では、医療画像検査技術、核医学検査技術、放射線治療技術で、それぞれ最先端の教育・研究を行い、放射線技術科学について専門的に広い視野を獲得することを目指します。さらに専門を越えて関連する他分野の科目も選択し、専門知識を幅広いものにするよう配慮しています。それぞれの専門分野において、近隣の研究施設との共同研究も行なっており、また付属病院ではX線撮影装置、CT検査装置、MRI、核医学検査装置等が整備され、基礎と臨床の結びついた研究が行なえる体制が整っています。また、原子力施設を多く受け入れている本県の立地特徴を背景に、公正性、論理性に優れた放射線管理者の育成も可能とする教育課程としています。

医学物理学分野では、学部の教育内容を踏まえて、医学物理士認定機構の医学物理教育カリキュラムガイドラインに準拠して、医学物理士となり得る知識・技能を養います。医学物理士としては基礎物理学や基礎医学の基礎教育科目、放射線診断物理学、放射線治療物理学などの医学物理系、

および、核医学、放射線腫瘍学などの医学系の内容を学修する応用科目を開設しています。また、本学の医学物理学分野（MPコース）は、一般財団法人医学物理士認定機構より「認定医学物理教育コース」として認定されています。在籍者および修了者（旧MPコースの修了者を含む）は、医学物理士認定試験ならびに医学物理士新規認定において優遇措置を受けられます。

カ 医科学領域では、幅広い関連学部・学科（言語療法学、臨床工学、心理学、薬学、栄養学、臨床検査学、社会福祉学、農学、工学、情報、生物、社会学、法律学、倫理学など）からの学生の受け入れに対応するため、医科学領域の「応用科目」を開設する。

キ 授業は、主に夜間帯（18：30～21：40）及び週末等に実施し、一部の科目を除き遠隔授業としております。これにより、在職しながら大学院に就学することができます。なお、一部の授業は昼間帯に実施する場合があります。

(3) 履修基準

【看護学領域】

科目区分		修士論文コース	CNSコース
基礎科目		4単位以上	2単位以上
応用科目	所属看護区分の応用科目 （「特論*」科目）	2単位	26単位以上
	所属看護区分の応用科目 （必修科目**）		
	当該領域又は他領域の応用科目	14単位以上	
特別研究等	特別研究	10単位	
	実習		10単位
	課題研究		4単位
合計		30単位以上	42単位以上

* 基盤看護学特論（2単位）、看護管理学特論（2単位）、ウィメンズヘルス看護学特論（2単位）、小児看護学特論（2単位）、成人看護学特論（2単位）、老年看護学特論（2単位）、公衆衛生看護学特論（2単位）、精神看護学特論（2単位）

** 研究計画法と研究倫理（2単位）、看護理論（2単位）、看護倫理（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、小児科学（2単位）、小児サポートシステム論（2単位）、小児健康評価演習（2単位）、小児看護マネジメント論（2単位）、小児看護援助演習（2単位）、小児看護応用演習（2単位）、高齢者サポートシステム論（2単位）、高齢者健康評価論（2単位）、高齢者生活援助論（2単位）、高齢者病態論（2単位）、老年看護学演習Ⅰ（2単位）、老年看護学演習Ⅱ（2単位）、精神看護学方法論（2単位）、精神看護学演習（2単位）、精神評価方法論（2単位）、精神治療方法論Ⅰ（2単位）、精神治療方法論Ⅱ（2単位）、救急・急性期精神看護学特論（2単位）

【理学療法学領域】

科目区分		履修単位数
基礎科目		4 単位以上
応用科目	当該領域の応用科目 (10 単位以上)	16 単位以上
	当該領域又は他領域の応用科目 (6 単位以上)	
特別研究	特別研究	10 単位
合 計		30 単位以上

【作業療法学領域】

科目区分		履修単位数
基礎科目		4 単位以上
応用科目	当該領域の応用科目 (10 単位以上)	16 単位以上
	当該領域又は他領域の応用科目 (6 単位以上)	
特別研究	特別研究	10 単位
合 計		30 単位以上

【放射線技術科学領域】

科目区分		実践技術学分野	医学物理学分野 (MP コース)
基礎科目		4 単位以上	2 単位以上
応用科目	当該領域の応用科目	10 単位以上	14 単位以上
	当該領域又は他領域の応用科目	6 単位以上	4 単位以上
特別研究	特別研究	10 単位	
合 計		30 単位以上	

【医科学領域】

科目区分		履修単位数
基礎科目		4 単位以上
応用科目	当該領域の応用科目 (8 単位以上)	16 単位以上
	当該領域又は他領域の応用科目 (8 単位以上)	
特別研究	特別研究	10 単位
合 計		30 単位以上

(4) 修了要件

2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとします。

ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については1年以上在学すれば足りるものとします。

(5) 各領域における授業科目及び履修例

看護学領域	・・・・・・・・	6 ページを参照
理学療法学領域	・・・・・・・・	8 ページを参照
作業療法学領域	・・・・・・・・	9 ページを参照
放射線技術科学領域	・・・・・・・・	10 ページを参照
医科学領域	・・・・・・・・	11 ページを参照

6 講義等の内容

12 ページから 34 ページまでを参照

7 指導教員と研究概要

看護学領域	・・・・・・・・	35 ページを参照
理学療法学領域	・・・・・・・・	36 ページを参照
作業療法学領域	・・・・・・・・	38 ページを参照
放射線技術科学領域	・・・・・・・・	39 ページを参照
医科学領域	・・・・・・・・	40 ページを参照

【博士前期課程】

各領域における授業科目及び履修例

看護学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	基礎看護学区分所属	看護管理学区分所属	ウィメンズヘルス看護学区分所属	小児看護学区分所属	成人看護学区分所属	老年看護学区分所属	公衆衛生看護学区分所属	精神看護学区分所属
基礎 科目	研究手法上研究倫理	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	健康統計学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	人間と医療、そして社会	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	環境科学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	医療と教育論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	実践応用表現	1	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護理論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護倫理	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	家族看護学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	内能生理学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
看護 学 区 分	臨床薬理学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	フィンカルアセスメント	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	基礎看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	基礎看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護管理学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護ヘイ ウィメンズヘルス看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	看護ヘイ ウィメンズヘルス看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
小児 看護 学 区 分	小児科学	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児サポートシステム論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児臨床評価演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護マナジメン論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護臨床演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	小児看護応用演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	成人看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	成人看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	成人看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
老 年 看護 学 区 分	高齢者サポートシステム論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	高齢者健康増進論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	高齢者生活援助論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	高齢者介護論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	老年看護学演習 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	老年看護学演習 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	公衆衛生看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	公衆衛生看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	公衆衛生看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学特論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
精 神 看護 学 区 分	精神看護学方法論	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学演習	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学方法論 I	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	精神看護学方法論 II	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	緊急・急性期精神看護学特論*	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	特別研究	10	●	●	●	●	●	●	●	●
	合計		●	●	●	●	●	●	●	●

注1 看護学領域の応用科目は、所属区分の「特論」科目は必ず履修し、看護学領域および他領域の応用科目と合わせて計10単位以上を履修すること。

注2 ●の付いていない科目も履修可能である。

看護学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	小児看護学区分所属 (CNSコース)	老年看護学区分所属 (CNSコース)	精神看護学区分所属 (CNSコース)	
基礎科目	研究計画法と研究倫理★	2	●	●	●	
	健康統計学	2	●	●	●	
	人間と医療、そして社会	2	●	●	●	
	環境医学	2	●	●	●	
	医療と教育論	2				
	実践英語表現	1				
応用科目	看護学共通科目	看護理論★	2	●	●	●
		看護倫理★	2	●	●	●
		家族看護学	2			
		病態生理学★	2	●	●	●
		臨床薬理学★	2	●	●	●
		フィジカルアセスメント★	2	●	●	●
	基盤看護学区分	基盤看護学特論	2			
		基盤看護学演習	2			
	看護管理学区分	看護管理学特論★	2	●	●	●
		看護管理学方法論	2			
		看護管理学演習	2			
	ヘルスケア学区分	ウィメンズヘルス看護学特論	2			
		ウィメンズヘルス看護学方法論	2			
		ウィメンズヘルス看護学演習	2			
	小児看護学区分	小児科学★	2	●		
		小児看護学特論★	2	●		
		小児サポートシステム論★	2	●		
		小児健康評価演習★	2	●		
		小児看護マネジメント論★	2	●		
		小児看護援助演習★	2	●		
	成人看護学区分	成人看護学特論	2			
		成人看護学方法論	2			
		成人看護学演習	2			
	老年看護学区分	老年看護学特論★	2		●	
		高齢者サポートシステム論★	2		●	
		高齢者健康評価論★	2		●	
		高齢者生活援助論★	2		●	
		高齢者病態論★	2		●	
		老年看護学演習Ⅰ★	2		●	
	公衆衛生学区分	公衆衛生看護学特論	2			
公衆衛生看護学方法論		2				
公衆衛生看護学演習		2				
精神看護学区分	精神看護学特論★	2			●	
	精神看護学方法論★	2			●	
	精神看護学演習★	2			●	
	精神評価方法論★	2			●	
	精神治療方法論Ⅰ★	2			●	
	精神治療方法論Ⅱ★	2			●	
救急・急性期精神看護学特論★	2			●		
課題研究★		4	●	●	●	
CNS実習★		10	●	●	●	
合計			42単位以上	42単位以上	42単位以上	

- 注1 他領域の応用科目も単位として認める。
 注2 ★の付いた科目は必修科目。
 注3 ●の付いていない科目も履修可能である。

理学療法学領域における授業科目及び履修単位数

区 分	科 目 名	単 位 数	理学療法学領域
基礎 科 目	研究計画法と研究倫理	2	●
	健康統計学	2	●
	人間と医療、そして社会	2	●
	環境医科学	2	●
	医療と教育論	2	●
	実践英語表現	1	●
応用 科 目	理学療法学理論特論	2	●
	運動・動作解析学特論	2	●
	呼吸機能障害理学療法学特論	2	●
	運動機能障害理学療法学特論	2	●
	生活機能構造学特論	2	●
	障がい者スポーツ学特論	2	●
	地域リハビリテーション学特論	2	●
	地域リハビリテーション学特論演習	2	●
	リハビリテーション教育学特講	2	●
特別研究		10	● 10単位
合 計			30単位以上

注1 理学療法学領域の応用科目は、当該分野から10単位以上、理学療法学領域および他領域の応用科目と合わせて計16単位以上を履修すること。

作業療法学領域における授業科目及び履修単位数

区 分	科 目 名	単 位 数	理学療法学領域
基礎 科 目	研究計画法と研究倫理	2	●
	健康統計学	2	●
	人間と医療、そして社会	2	●
	環境医科学	2	●
	医療と教育論	2	●
	実践英語表現	1	●
応用 科 目	作業科学特論	2	●
	作業科学特論演習	2	●
	活動障害解析・評価学特論	2	●
	活動障害解析・評価学特論演習	2	●
	活動障害治療・介入学特論	2	●
	活動障害治療・介入学特論演習	2	●
	地域支援作業療法学特論	2	●
	地域支援作業療法学特論演習	2	●
	リハビリテーション教育学特講	2	●
特別研究		10	● 10単位
合 計			30単位以上

注1 作業療法学領域の応用科目は、当該分野から10単位以上、作業療法学領域および他領域の応用科目と合わせて計16単位以上を履修すること。

放射線技術科学領域における授業科目及び履修単位数

区分	科目名	単位数	実践技術学分野	医学物理学分野 (MPコース)
基礎科目	研究計画法と研究倫理	2	●	●
	健康統計学	2	●	●
	人間と医療、そして社会	2	●	●
	環境医科学	2	●	●
	医療と教育論	2	●	●
	実践英語表現	1	●	●
応用科目	画像検査技術学特論	2	●	
	画像検査技術学演習	4	●	
	医療画像情報学演習	4	●	
	核医学情報解析学特論	2	●	
	核医学技術学特論	2	●	
	核医学技術学演習	4	●	
	放射線治療技術学特論	2	●	
	先端放射線治療技術学特論	2	●	
	放射線治療技術学演習	4	●	
	医療・画像情報学特論	2		●
	放射線診断物理学特論	2		●
	核医学物理学特論	2		●
	放射線防護学特論	2		●
	放射線治療物理学特論	2		●
	放射線計測学特論	2		●
	臨床放射線治療学演習★	2		●
	医学物理学特論	2		●
	医学物理学実習★	4		●
特別研究		10	●	10単位
合計			30単位以上	

注1 実践技術学分野の応用科目は、当該分野から10単位以上、医学物理学分野および他領域の応用科目と合わせて計16単位以上を履修すること。

注2 医学物理学分野の応用科目は、当該分野から14単位以上、実践技術学分野および他領域の応用科目と合わせて計18単位以上を履修すること。

注3 ●の付いていない科目も履修可能

注4 ★のついた科目は2年次での履修が望ましい。

医科学領域における授業科目及び履修単位数

区 分	科 目 名	単 位 数	医科学領域
基礎 科目	研究計画法と研究倫理	2	} 4 単位以上
	健康統計学	2	
	人間と医療、そして社会	2	
	環境医科学	2	
	医療と教育論	2	
	実践英語表現	1	
応用 科目	教育実践特論	2	} 8 単位以上
	医科学の最先端と研究応用	2	
	臨床医学の最前線	2	
	公衆衛生学特論	2	
	基礎神経科学特論	2	
	先端ニューロサイエンス特論	2	
	ライフサイクルとメンタルヘルス	2	
	生体情報解析学特論	2	
	物理療法の最前線	2	
	最新放射線医学特論: 機能画像診断およびtheranostic imaging	2	
特別研究		10	● 10 単位
合 計		30 単位以上	

注1 医科学領域の応用科目は、当該領域から8単位以上、医科学領域および他領域の応用科目と合わせて計16単位以上を履修すること。

【博士前期課程】

講義等の内容

講義等の内容

【基礎科目】

(★印は科目責任者)

授業科目名	講義等の内容
研究計画法 と研究倫理	<p>医療系とその関連研究分野を主な対象として、その研究活動の土台となる研究計画法と倫理について概説する。研究の方向性、内容に適した計画案をたてるための基本理論の組み立て方を、実験系、観察系、介入系、質的調査のそれぞれについて、具体的な事例をもとに解説する。</p> <p>キーワード：研究計画法、研究倫理、質的調査の研究計画法、事例研究を進めるための研究計画法、観察・尺度研究の計画方法、看護領域における研究計画、診療放射線領域における研究計画</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★内田敦子教授、井出政行教授、笹原朋代教授、山本哲准教授、宮川真助教、田島敬之非常勤講師、谷出敦子非常勤講師、中本五十鈴非常勤講師)</p>
健康統計学	<p>健康科学分野では、臨床データ・実験データ・調査データなど多様な種類のデータが扱われる。それぞれ性質が異なるため、研究目的に応じて適切な解析法を選ぶことが重要である。本講義では、健康科学分野で頻りに用いられる主要なデータ解析法を解説し、論文を正確に読み解く力と、データに対して妥当な解析方法が判断できる力を養うことを目指す。</p> <p>キーワード：検定、回帰分析、多変量解析、データサイエンス、生体データ、アンケート調査、サンプリング、再生医療、ロボットリハビリテーション、生物統計、ビッグデータ</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★膳法浩史准教授、井出政行教授、久保田茂希教授、内田敦子教授、田島敬之非常勤講師)</p>
人間と医療、 そして社会	<p>ヒトの健康と命を守り育てるための医療、それを取り巻く社会との関係について、基礎科学から臨床、更に生命倫理など多角的観点から概説する。</p> <p>キーワード：生命倫理と社会論、生命倫理、医療安全 ヒューマンエラー、医療の課題と展望</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★才津芳昭教授、中山智博准教授、中村勇講師、大坂佳子講師、松元秀次教授、海山宏之講師)</p>
環境医科学	<p>環境が人間に与える影響について、医科学的に概説する。</p> <p>キーワード：公衆衛生、感染予防・対応、リハビリテーション医療における環境因子、環境因子)</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★桜井直美教授、河野了教授、松元秀次教授、相良順一准教授)</p>

授業科目名	講義等の内容
医療と教育論	<p>医療従事者の養成に必要な教育学に関する諸理論や概念を学修するとともに、現代の若者の心理的特徴を理解し、教育心理学に基づいた適切な指導の方法について学ぶ。さらに、医療専門職の教育に特化した専門教育の方法を実践する能力を身に着ける。</p> <p>キーワード：学習者の心理、教育心理学、指導理論、ハラスメント予防、教育の基礎理論、初等中等教育、高等教育、生涯学習、医療専門職教育、医療プロフェッショナルリズム、医学教育の変遷、PBL、TBL、反転授業、教育評価、卒後教育、チーム医療</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★佐藤純教授、河野豊教授、立石慎治非常勤講師、堀内明由美非常勤講師)</p>
実践英語表現	<p>インバウンド需要拡大にともなう医療現場の国際化に対応できる能力を身につけるため、臨床現場を想定したロールプレイを通して、実践的な英語表現を学習する。また研究活動に必要な基礎的英語表現、並びにアカデミックスキルとして必要な英語を読む、書く、聞く、話す力をバランスよく身につけるための基礎作りを中心とした講義を行う。</p> <p>キーワード：パラグラフライティング、Concise, Clear, Convincing, Confident の4つのCを意識したコミュニケーションスキル</p> <p>(★内田敦子教授、D. ニューバリー教授、田中マリア助教)</p>

【看護学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
看護理論	<p>看護現象の理解を深めるために、看護実践の基盤となる看護理論を理解する。理論と実践とのつながりについて、自らの看護実践を通して考察した結果を相互に討議することによって探究する。</p> <p>(★富田美加教授) 看護実践の基盤としての看護理論の意義について考究する。</p> <p>(高橋照子非常勤講師) 理論と実践とのつながりについて、自らの看護実践を通して考察した結果を相互に討議することによって探究する。</p>
看護倫理	<p>看護活動場面における倫理的諸課題に対し、解決に向けて調整を行うために用いる諸理論及び具体的アプローチについて考究する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田美加教授) 看護学の実践者、教育者、研究者に必要な研究倫理の基本について教授する。</p> <p>(角智美非常勤講師) 看護実践における倫理的課題及びその分析の方向性について教授する。</p> <p>(鶴若麻理非常勤講師) 生命倫理を通して人間の尊厳、ヒューマンケアについて教授する。また、看護実践における倫理的態度や看護師の倫理調整力、アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning ; ACP) について教授する。</p> <p>(中島弘非常勤講師) 医療倫理全体の視点から、保健医療職のもつべき倫理規定及び医療職者間の関係性からみた看護職の役割について教授する。</p>
家族看護学	<p>家族の基礎知識を理解し、現代的問題を考察する。また、家族看護の研究及び実践方法を学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、小林京子非常勤講師) 家族看護学の国内外における歴史的経緯と展望を明らかにし、家族看護に関する研究及び実践の具体的方略を概説する。</p> <p>(才津芳昭教授) 多様化する家族に対して家族政策をどうすべきか、というテーマのもとに、様々なイシューを考察する。</p>
病態生理学	<p>高度看護実践者に必要とされる、主な症状や徴候、所見の背景にある病態生理を網羅的に教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、河野了教授、河野豊教授、六崎裕高教授、中村博文教授、未定、松下明講師、古川恵一非常勤講師、五十嵐忠彦非常勤講師、市村和大非常勤講師、齋藤和美講師、竹内亮子講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
臨床薬理学	<p>薬物力学・薬物動態学などの基礎薬理学の知識を押さえて、臨床現場で多く遭遇する疾患および救急時の薬物療法について学習する。患者の生物学的背景、生活文化、疾病状況をアセスメントし、薬物の効用と副作用のバランスを考慮しながら、患者の QOL 向上に寄与する薬物療法を導き出し、薬指導・管理を検討し、患者の薬剤アドヒアランスの向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授、未定、藤岡寛教授、河野了教授、井出政行教授、大坂佳子教授、齋藤和美講師、森和也非常勤講師、田口真穂非常勤講師、古川恵一非常勤講師、隈本邦彦非常勤講師)</p>
フィジカルアセスメント	<p>さまざまな健康問題をもつ対象の身体・精神状況を診査し、臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。成人期の対象へのアセスメントに必要な知識・技術を基盤として学修した後、各発達段階の特徴に基づくアセスメントの技法を修得する。また、各専門領域における専門看護師としてのフィジカルアセスメントの活用について考察する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、中村博文教授、藤岡寛教授、笹原朋代教授、河野豊教授、河野了教授、六崎裕高教授、松元秀次教授、川野道宏非常勤講師、本村美和准教授)</p>
基盤看護学特論	<p>看護学の基盤的要素に関する研究動向について理解を深めるとともに、科学的根拠に基づいた看護実践のための方法論について、オープンサイエンスの観点から教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田美加教授、高橋由紀准教授)</p>
基盤看護学演習	<p>基盤看護学領域の研究に関する文献抄読や看護技術を科学的に探求する演習を通して、看護学の基礎的研究について教授する。また、研究課題に適した研究方法の選択、研究の進め方について、文献抄読等を通して実際に理解するとともに、各自の研究課題を明確化し、研究計画書を作成する。</p> <p>(★富田美加教授、高橋由紀准教授)</p>
看護管理学特論	<p>保健・医療・福祉を取り巻く環境について概観し、看護サービスおよび看護管理のあり方を教授する。また看護管理者のコンピテンシーについて深く検討する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山海千保子准教授、吉良淳子特任教授) 看護管理の基本的な概念や理論の理解を深め、看護管理の課題を探求する。特に看護サービスマネジメントの視点から、質の保証と評価および改善のあり方について追及していく。</p> <p>(柳橋礼子非常勤講師) 組織力の強化を目指すスタッフのキャリア開発と継続教育のあり方について教授する。</p> <p>(金井 Pak 雅子非常勤講師) 看護管理に関する内外の研究および活動の国際比較からわが国における特徴と課題を考察する。</p>

授業科目名	講義等の内容
看護管理学 方法論	<p>(★山海千保子准教授) 複雑なシステム構造をもつ医療チームの組織構造と機能、および組織と個人の目標達成に向けた看護管理者の役割を探求し、看護管理プロセスをふまえて課題解決の方法を検討する。</p> <p>授業は文献抄読とディスカッションを中心に行う。研究的視点で看護管理の実際を理解し、看護管理における理論や概念を理解し、個別の研究課題を考察する。</p>
看護管理学 演習	<p>(★山海千保子准教授) 国内外の文献抄読等を通して、研究課題に適した研究方法の選択、研究の進め方について实际的に理解する。演習を通して、各自の研究方法を具体化し、研究計画書を作成する。</p>
ウィメンズ ヘルス看護 学特論	<p>女性のライフステージ全般にわたり、ウィメンズヘルスの視点から歴史的背景、基本的概念、諸理論を通して対象を理解し、各ステージの諸問題を判断する知識および理論を教授する。女性とその家族へのプライマリケアについて、看護専門職として多様な視点について展望する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山波真理教授) 日本および諸外国におけるウィメンズヘルスの歴史的背景を探る。女性のライフステージにおける健康問題を関係する概念を用いて分析する。</p> <p>(金澤悠喜非常勤講師) ウィメンズヘルスの現状および新たな問題を発見する方法論として EBM を教授する。</p> <p>(菊地栄非常勤講師) ジェンダーアプローチ、社会デザイン学の視点から、ウィメンズヘルスの保健・医療の場における調査データの分析、分析理論について、教授する。</p>
ウィメンズ ヘルス看護 学方法論	<p>ウィメンズヘルス看護についての方法論を量的、質的両面から理解し、応用するための基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山波真理教授、山海千保子准教授) 課題別に方法論の選択肢および研究方法論について教授する。研究論文のクリティークを通して様々な研究手法についての理解を深める。</p> <p>(島田智織教授、長岡由紀子准教授) ウィメンズヘルス看護活動／研究の課題の捉え方と質的方法、量的方法について教授する。</p>
ウィメンズ ヘルス看護 学演習	<p>女性のライフサイクルにおける健康上の問題あるいは周産期における母子及び家族の健康に関するニーズや問題に対して新しい看護・助産の分析、研究方法を学ぶ。</p> <p>(★山波真理教授、山海千保子准教授) 女性、母子および家族に関するケアについて事例や事象からケア理論、分析方法を抽出し応用することを教授する。</p> <p>(毛利多恵子非常勤講師、加納尚美非常勤講師) 周産期保健・医療における場、女性からのニーズの引き出し方、ケア提供者の持つ目標による相違を比較し、女性自身の求めるケアへの接近方法について、教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
小児科学	<p>小児期における代表的な疾患に関して、その病態生理・診断・治療・症状マネジメントのプロセスを学ぶ。また、それら一連のプロセスにおける看護援助の視点を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中山智博准教授、中山純子准教授、大黒春夏講師、藤岡寛教授)</p>
小児看護学特論	<p>子どもと家族を成長発達の見点からとらえ、子どもの認知、情緒・社会性を把握し、セルフケア、自尊心やボディイメージを含む自己概念、コーピング能力について学習する。更に、子どもと家族に対する理解やケアへの活用方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授、龜山千里非常勤講師、小林京子非常勤講師)</p>
小児サポートシステム論	<p>国際的視点からの小児保健看護の歴史や、小児に関わる医療・保健政策、福祉政策、教育政策並びにその問題点と解決方法について学ぶ。また、日本における小児保健看護の歴史、および、小児および家族が利用できる社会資源の有効な活用方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、小林京子非常勤講師)</p>
小児健康評価演習	<p>あらゆる健康レベルの子どもとその家族を包括的にアセスメントするために必要な方略や技法を学ぶ。オムニバス方式をとることによって、より高度で専門的なアセスメント技法を提供し、フィールド演習を通して、子どもの各側面の成長発達と家族の包括的評価能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(中山智博准教授)</p> <p>子どもの身体的アセスメントに必要な理論と技法を学ぶ。</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授)</p> <p>子どもの発達を評価するために必要な理論及び技法を学ぶ。</p> <p>子どもと家族の精神的健康や家族機能を評価する方略や技法を学ぶ。</p>
小児看護マネジメント論	<p>リハビリテーションが必要な子どもと家族を対象に、彼らが直面する健康問題や社会的問題を解決するために必要な看護管理能力や教育的役割遂行能力を高めるとともに、小児リハビリテーション看護、小児リエゾン看護、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整について学ぶ。</p> <p>また、病院や施設にいる障害のある子どもと家族を対象とした看護組織の仕組みや機能、教育などの看護マネジメントのあり方について、チームアプローチの見点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授)</p>

授業科目名	講義等の内容
小児看護援助演習	<p>様々な健康レベルにある子どもとその家族に対して、適切な倫理的判断および臨床判断に基づく高度な看護実践の方法を学ぶ。特に、子どもの権利擁護や意思決定支援、プレパレーションの実施方法に注目する。また、援助方法を検討するにあたり、ヘルスプロモーション・ストレス・コーピング、レジリエンスの概念を活用する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、笠井久美准教授)</p>
小児看護応用演習	<p>小児リハビリテーションを必要とし、通院又は入院中の発達段階の異なる子どもに対して、身体的および心理社会的な視点で、かつ子ども本人および家族全体の範囲を包括的にアセスメントし、改善策を具体的に提示できる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、小林京子非常勤講師)</p>
成人看護学特論	<p>疾患・障害をもつ成人とその家族及び健康づくりや疾病予防への看護に関連する理論と最近の知見を深め、実践のための知識の深化を図るとともに、研究のための基礎を教授する。</p> <p>理論に基づき、援助対象の看護問題のアセスメント、援助方法のあり方、さらにはその開発について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★笹原朋代教授) 成人期の看護の対象の特性について教授する。慢性期・終末期、リハ期における対象の特性と看護の特徴、主要概念とモデル・理論の活用について教授する。</p> <p>(大江佳織准教授) ヘルスプロモーション活動における健康行動理論等や急性期における危機理論等を活用した看護について教授する。</p>
成人看護学方法論	<p>成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、新たな視点や方法を創造していくことを課題とし、その発達段階の特徴をふまえ、健康障害ならびに各経過における特徴に関する実践および研究課題を追究していく方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★本村美和准教授、大江佳織准教授、笹原朋代教授)</p> <p>国内外の文献を通して成人看護学の課題について教授する。</p>
成人看護学演習	<p>研究課題に適した研究方法の選択や研究の進め方について、文献抄読等の演習を通して実際に理解する。各自の研究課題を明確化し、研究計画書を作成する。</p> <p>(★大江佳織准教授、笹原朋代教授、本村美和准教授)</p>
老年看護学特論	<p>高齢者看護に関わる諸理論や概念を学修し、高齢者の心理・社会性や健康上の課題と、高齢者の潜在能力を引き出し QOL を高めるために必要な看護について理解を深めるとともに、適切な倫理的意思決定に基づいて専門性の高い看護実践ができる能力を養う。</p> <p>(★未定、渡辺忍准教授、田中久美非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
高齢者サポートシステム論	<p>高齢者の保健医療福祉制度における政策の現状および展望をグローバルな視点から理解し、看護の立場から、制度・施策の改善に向けた活動計画の案出能力を修得する。また、高齢者とその家族を包括的視点で捉え、最適なサービス調整や関係職種や住民との連携・協働を促進し、倫理的意思決定による継続看護を展開するための能力を養う。ソーシャルサポートの知識を用い、フィールドワークにより、高齢者に必要とされるサポートシステムの組織化と活用を促進するための計画を提案できる。</p> <p>(★未定、渡辺忍准教授、佐藤嘉夫教授、田中和子非常勤講師)</p>
高齢者健康評価論	<p>高齢者と家族の生活上の健康ニーズを把握するために、総合機能評価に用いられる評価指標とその使用方法について理解する。また、高齢者の老化過程をふまえ、神経系等の機能評価の方法と実際について学修する。さらに、高齢者の健康行動および心理に影響を与える環境とその要因の評価について学修する。最後に事例を用い、家族看護に関する諸理論を活用し、評価する。</p> <p>(★未定、河野豊教授、松田智行准教授)</p>
高齢者生活援助論	<p>高齢者に起こりやすい健康問題や生活機能障害について、疾患の影響や診断・治療をふまえた身体・心理・社会機能のアセスメントに基づき、高齢者の潜在能力を引き出し、QOLの向上を意図した看護援助を実践できる能力を養う。また、高齢者および家族に対して、高齢者の健康問題に潜在する倫理的課題をふまえた専門的かつ高度な看護を実践できる能力を養う。</p> <p>(★未定、本村美和准教授、石井智恵理非常勤講師)</p>
高齢者病態論	<p>高齢者に起こりやすい疾患や判別を要する症状の病態・検査・治療について学修し、適切な判断に基づく看護を実践するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、河野豊教授、河野了教授、井出政行教授、岸本浩講師、平沢伸弘講師、石井幸雄非常勤講師、森和也非常勤講師)</p>
老年看護学演習Ⅰ	<p>入院治療中の急性期から終末期の複雑な健康問題を有する高齢者（認知症高齢者を含む）に対して、質の高いアセスメントと看護について再考し、高齢者に安心、安全で円滑な治療と入院生活を提供するための最新の看護実践を探求する。</p> <p>(★未定、石井智恵理非常勤講師)</p>
老年看護学演習Ⅱ	<p>高齢者施設や在宅で療養生活をおくる複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族が、質の高い生活を送ることができるよう、適切な看護判断と看護実践を展開する能力を修得する。</p> <p>(★未定、渡辺忍准教授、鶴見三代子講師、久保沙紀非常勤講師、山地里英非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
公衆衛生看護学特論	<p>公衆衛生看護学の基本的概念や諸理論について理解を深め、地域で展開する看護活動の特性及び特論を学ぶことから自らの研究課題を深めていく。</p> <p>歴史的背景をふまえ、地域看護学における最新の研究の動向について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、綾部明江准教授)</p>
公衆衛生看護学方法論	<p>公衆衛生看護学において重要である疫学を中心に、環境衛生、衛生行政等の公衆衛生学的立場から、地域保健医療活動を教授する。具体的には、学部における「衛生・公衆衛生学」を基盤に、地域住民の疾病予防、健康増進、高齢者の健康保持、感染予防対策、難病支援などの側面から、公衆衛生看護として貢献可能な方法論を教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、綾部明江准教授)</p>
公衆衛生看護学演習	<p>公衆衛生看護活動の特性について、具体的活動事例を通して方法論の検討をするとともに、公衆衛生看護管理および公衆衛生看護教育の方法論について教授する。</p> <p>公衆衛生看護活動の対象、活動の場、活動方法の特性について、事例を通して学び、公衆衛生看護の専門性について分析する。また、今後の公衆衛生看護学の看護管理及び基礎教育と継続教育のあり方について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、綾部明江准教授、松田正巳非常勤講師、反町吉秀非常勤講師、田中友規非常勤講師)</p>
精神看護学特論	<p>精神看護学における実践の基盤となる知識を、精神障がい者への施策・人権擁護に関する歴史的変遷も含めて振り返り、基礎的理論についての理解を深める。さらに、最近の動向と知見を得ることで、今後の精神看護学のあり方について各々が考察できるよう科学的思考を身につける。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神看護学における基本となる考え方を、最近のトピックスとともに考察し、精神科医療の歴史的背景を含めて教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) 看護職者の精神的危機に焦点を当て、そのメカニズムや対処方法などを教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神看護学 方法論	<p>人々の精神状態や発達課題の的確な評価方法とその活用について理解を深める。さらに精神障がいをもつ対象の特徴を理解し、アセスメント方法を理解するとともに、認知行動療法、セルフヘルプを含めたグループアプローチなど具体的援助方法とその活用について教授する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神状態を評価するときの指標を、セルフケア理論に基づいて、人間行動学的にアセスメントする方法を教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) バーンアウトやリアリティショックなどの概念や実際の事例等を用いながら、それらのコーピングの実践能力を教授する。</p>
精神看護学 演習	<p>精神障がいをもつ対象の理解と援助方法について、実際の事例や国内外の文献を通して分析し、精神看護学における現状と課題を明らかにする。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 国内外の文献を通して、精神保健医療の課題と今後の展望について教授する。また、研究手法(量的・質的)の概略について教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) 量的研究の方法論としての、統計学的手法を説明し、実際の活用方法について教授する。</p>
精神評価方 法論	<p>精神機能ならびに人格水準の評価に必要な精神力動理論、人間発達論、レジリエンスモデルなどの基盤となる理論を習得する。さらに精神医学モデルに則り、精神科診断学や精神科臨床検査学の知識を学習し、さまざまな状態にある人間の精神や問題行動、さらに家族の病理について諸理論を用いて総合的に評価ができる能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神健康状態の査定・評価と理論体系に基づいたさまざまな主要概念を教授する。</p> <p>(井手政行教授) さまざまな発達段階における精神疾患の検査と診断を教授する。</p>
精神治療方 法論 I	<p>精神看護専門看護師が行う治療支援の方法としてその基本理論とその技法について修得する。その具体的内容として、1) 支持的精神療法、2) 認知行動療法、3) 集団精神療法、4) 危機介入、5) 精神科薬物療法の基本などを深く学び、精神治療学体系を学修する。そして、精神障がい者の症状コントロールやマネジメントに関する研究論文を検索し、その内容を基にディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科における治療の全体と看護の役割について教授する。</p> <p>(井出政行教授) 精神薬理の理論とその作用機序について教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
精神治療方法論Ⅱ	<p>精神看護専門看護師が行う治療支援の方法としてその基本理論とその技法について修得する。その具体的内容として、1) 心理教育、2) リラクゼーション、3) アンガーマネジメント、4) アサーション、5) マインドフルネスなどを深く学び、精神治療学体系を学修する。そして、精神障がい者の症状コントロールやマネジメントに関する研究論文を検索し、その内容を基にディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科領域で行われる治療支援の基盤となる理論を理解し、その特徴ならびに適用と技法について教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) ストレスの概念、コーピング理論の概要、その介入手法について教授する。</p> <p>(井出政行教授) 動機づけ面接、弁証法的行動療法などについて教授する。</p>
救急・急性期精神看護学特論	<p>救急・急性期における精神看護専門看護に求められる、卓越した看護を行うための実践能力を育成に向け、必要な知識と技能を修得する。精神科における救急・急性期に関する人間関係論、セルフケア理論、医学モデルなどを活用し、講義および事例展開、最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して援助の理論的枠組みと臨床への適応方法を実践的に学ぶ。特に急性期精神疾患である、統合失調症群、抑うつ障害群、不安障害群、心的外傷およびストレス障害群等の患者の特徴を理解し、精神機能の評価及び生活状態のアセスメント方法について討議を通して深く学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★中村博文教授) 精神科救急・急性期における具体的看護方法について論じ、回復過程にあわせた看護ケアを教授する。</p> <p>(糸嶺一郎准教授) 精神科救急・急性期看護現場が抱える課題と特有の倫理的問題について教授する。</p>

授業科目名	講義等の内容
小児看護学 実習Ⅰ（小児 の診断・治療 実習）	<p>実際の患児（10例以上）を通じて、高度実践看護師に必要とされる、小児の代表的な疾患に関する症状の査定・診断・治療のプロセスを理解する。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★藤岡寛教授、笠井久美准教授）</p>
小児看護学 実習Ⅱ（専門 看護師実習 前半）	<p>高度実践看護師の実際の活動を見学し、そのコンサルテーション・教育・調整・倫理調整等の機能を理解する。そして、看護の難しい患児や家族に対して直接的なケア（高度実践）を行う。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★藤岡寛教授、笠井久美准教授）</p>
小児看護学 実習Ⅲ（専門 看護師実習 後半）	<p>看護の難しい患児や家族に対して、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整等含む、ケアとキウアを統合した高度な看護実践を行なう。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★藤岡寛教授、笠井久美准教授）</p>
老年看護学 実習Ⅰ	<p>入院治療中の急性期から終末期の複雑な健康問題を有する高齢者（認知症高齢者含む）に対して、研究的視点を持ちながら最新の知識と技術を用いて、質の高い看護が提供できる実践能力を修得する。また、看護職員への相談・教育能力や、高齢者を取り巻く医療チームとの調整能力を修得する。</p> <p>（★渡辺忍准教授、未定）</p>
老年看護学 実習Ⅱ	<p>高齢者施設や在宅において、高齢者に生じやすい症状や治療に予測的に対応できるよう、病態生理、薬物療法をふまえたフィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、キウアとケアを統合した看護実践を導くための能力を修得する。</p> <p>（★渡辺忍准教授、未定）</p>
精神看護学 実習Ⅰ （役割機能実 習、コンサルテ ーション・コー ディネーション 実習）	<p>専門看護師を役割モデルとしながら、院内や病棟看護師の教育及び臨床研究指導、コンサルテーション、調整、患者及び家族への倫理調整に関わる活動等を学び、精神看護専門看護師としての役割と機能を果たす能力を習得することを目的とする。高度実践看護師である精神看護専門看護師に同行し、直接看護ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究活動の場に同行し、観察を行いながら、専門看護師の役割と機能、さらに専門看護師としての態度について理解を深める。</p> <p>（★中村博文教授、糸嶺一郎准教授）</p>
精神看護学 実習Ⅱ （診断・治療 実習）	<p>精神科病院に入院あるいは通院している患者に対し、精神科医師の臨床判断や精神医学診断に関する一連の考え方や手技を精神科医師の指導の元で学び、精神的問題をもつ対象者の診たてに必要な知識と技能、態度を培うことを目的とする。また、専門職のスーパービジョンを受けながら、患者の症状や生活に適した薬物療法や各種治療技法の適用の理解を深め、卓越した働きかけをするための能力を養うことを修得する。</p> <p>（★中村博文教授、糸嶺一郎准教授）</p>

授業科目名	講義等の内容
精神看護学 実習Ⅲ (直接ケア 実習)	<p>医療施設等における直接ケア実習</p> <p>精神科医療施設における精神科診断・治療と直接ケアを中心に、必要に応じて倫理調整、教育およびコーディネーションを含めて、高度看護実践に必要な能力について実践的に修得する。</p> <p>サブスペシャリティ領域における直接ケア実習</p> <p>精神疾患患者や家族に救急・急性期精神看護を必要とする患者の QOL の向上を目指したケアとキュアを融合した高度な精神看護実践を行う。看護の専任教員と CNS 相当レベルの臨床指導者のスーパービジョンを得ながら実施する。救急・急性期看護を必要とする患者について包括的アセスメントに基づいて直接ケアを展開し、間接ケアとしてコンサルテーション、コーディネーションを展開する。</p> <p>(★中村博文教授、糸嶺一郎准教授)</p>
課題研究	<p>高度実践看護に関する特定の課題に関して、研究計画を立案し、その計画に従い研究を実施し、研究成果を課題論文として作成する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤岡寛教授、未定、中村博文教授)</p>

【理学療法学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
理学療法学 理論特論	<p>理学療法学の知識基盤・理論・技術の発展について歴史的及び現状の分析や文献的考察を通して、理学療法学の理論的枠組みを学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★篠崎真枝准教授) 目的・対象・手段といった理学療法の定義を再考し、今後の理学療法あり方をディスカッションする。運動学習・運動制御の諸理論を学修する。</p>
運動・動作解 析学特論	<p>運動・動作を多面的に理解するため、電気生理学的手法や動作筋電図、動作解析など様々な解析手法について学修する。これらの手法によって得られた知見をもとに、ヒトの運動制御機構や様々な疾患や障害によって生じる運動機能障害の病態についてディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★青山敏之准教授、柴田聡助教)</p>
呼吸機能障 害理学療法 学特論	<p>呼吸機能障害に対する治療法の国際動向を把握し、理学療法の役割や最新の評価・治療訓練について、文献を通して学修する。また、呼吸機能障害や呼吸理学療法に関連する研究成果・学術論文をもとに、ディスカッション形式で授業を進める。授業は、呼吸理学療法学分野の専門家によるオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★富田和秀教授、瀬高裕佳子助教、河村健太助教)</p>
運動機能障 害理学療法 学特論	<p>本授業では、運動機能障害に対する理学療法について、子どもから高齢者までを対象とした評価、治療、および効果判定に関する知見を、指定されたケーススタディおよび文献的検討を通して学修する。また、ディスカッションは学会形式で実施し、学会発表に必要なスキルに加えて、座長としての進行方法や、建設的な質問者としての関わり方についても学習する。</p> <p>本授業は、人体の機能解剖学分野および小児運動障害を専門とする教員によるオムニバス形式で行う。(オムニバス方式)</p> <p>(★滝澤恵美教授、黒田真由美助教) 運動機能障害の臨床研究等を用いて、ディスカッション形式で授業を展開する。</p>
生活機能構 造学特論	<p>生活機能と障害について国際生活機能分類 (ICF) の成り立ちをもとに学修する。また生活機能および生活機能に関する背景因子を評価するための評価尺度について、学生自らが臨床等で使用するものを中心に学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★浅川育世教授) 国際障害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) への改定の意義と、生活機能および障害について学修する。</p> <p>(宮田一弘助教) 対象者の状態把握や効果判定に用いられる機能・能力・障害に関する評価尺度の尺度特性 (妥当性、信頼性、反応性など) について学修する。</p>

授業科目名	講義等の内容
障がい者スポーツ学特論	<p>障がい者スポーツにおける各競技のクラシフィケーションの仕組みについて学修することを通して、多種多様な障害がある人々がスポーツをする際の公平性をどのように担保するかを議論する。また、身体機能障害、視覚障害、知的障害があるアスリートへのスポーツ指導における方法論を学修する。</p> <p>(★橋香織教授) 障がい者スポーツにおけるクラシフィケーションの仕組みと方法について学修する。また、各種障害の特性に応じた指導方法について学修する。</p>
地域リハビリテーション学特論	<p>地域リハビリテーションに関連する医学的研究の計画、デザイン、実施、解析の方法論について、教科書を基に議論し、基本的な調査研究方法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★松田智行准教授) 研究の基本的要素(リサーチクエスチョン、対象者の選択、測定方法の計画、サンプルサイズ)、研究デザイン(横断研究、コホート研究、症例対照研究、観察的研究における偏りと交絡、介入研究、ランダム化比較研究、既存データの利用)について学修する。</p> <p>(上岡裕美子教授) 研究の実施(倫理の問題、質問紙調査実施、データ管理)について学修する。</p>
地域リハビリテーション学特論演習	<p>地域リハビリテーションにおける実践事例および研究論文より、地域リハビリテーション支援および研究方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★上岡裕美子教授) 施設(入所サービス、通所サービス)および訪問リハビリテーションにおける介入研究の方法と成果について研究論文より検討する。</p> <p>(堀田和司教授) 地域リハビリテーションに関する公的データ検索と解釈について検討する。</p> <p>(松元秀次教授) 医療政策(病院経営等)およびリハビリテーション研究の進め方について学修する。</p>
リハビリテーション教育学特講	<p>卒後3年を目途に、理学療法士・作業療法士が医療専門職として修得しているべき知識・技能を考え、そこに至る過程を考えることにより、学内教育および臨床実習教育が備えるべき教育内容に関する理解を深める。同時に、診療参加型臨床実習の理念と方法を学び、学内教育と新任教育を如何に連続させるかについて考察する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>キーワード：医療専門職教育、学内教育、臨床実習教育、診療参加型臨床実習、新任教育</p> <p>(★堀田和司教授、松田智行准教授、白石英樹教授、浅川育世教授、藤田好彦准教授、篠崎真枝准教授、若山修一准教授、唯根弘准教授)</p>

【作業療法学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
作業科学特論	<p>人は、様々な作業（その人にとって何らかの意味や目的のある活動すること）により一日を過ごしている。人は自分の“していること”（作業遂行）によって自分自身をつくり、つくられていく。人を「作業的存在」としてとらえ、人と作業と健康に関する知識を系統的に探求するため、本授業では、人の作業の多角的な側面と、作業科学および作業療法理論における作業について学修する。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★齋藤さわ子教授）作業科学の視点から、作業の意味・形態・機能および作業の空間・時間的側面と人の健康との結びつきについて学修する。作業療法の理論において作業がどのように位置づけられ、扱われているかについて学修する。</p> <p>（伊藤文香講師）作業の研究から得た知見とその基づく、臨床応用と研究の発展の可能性について学修する。</p> <p>（港美雪非常勤講師）作業の研究から得た知識の臨床へ応用について学修する。</p>
作業科学特論演習	<p>作業科学特論で習得した知識を基本として、量的研究手法の一例として作業遂行に関する既存の客観的分析・評価法および、質的研究手法を用いたデータ収集・分析・解釈の実践を通して、人の生活を成す作業を科学的に捉え研究する方法を学修する。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★伊藤文香講師）作業遂行に関する既存の客観的分析・評価法および、質的研究手法を用いたデータ収集・分析・解釈の実践を通して、人の生活を成す作業を科学的に捉え研究する方法を学び、作業療法にとって重要な「作業」に関する知識を増やす研究を発案する。</p> <p>（齋藤さわ子教授）作業そのものを科学的に捉え研究する方法の概観し、自己の作業と健康における臨床上の問題をどのような方法で解決すべきかの検討することを学修する。</p> <p>岩井和子非常勤講師</p>
活動障害解析・評価学特論	<p>分担教員とともに障害者の活動障害を解析・評価する様々な手法を紹介し討議を行う。</p> <p>（オムニバス方式）</p> <p>（★藤田好彦准教授）活動障害を測るための尺度構成法、非観血的生理計測法を学習する。</p> <p>（久保田茂希教授）臨床で応用されている脳機能画像解析についてとりあげる。活動を制約する生理的機能または回復過程の測定デザインについて学習する。</p>
活動障害解析・評価学特論演習	<p>特論の講義をさらに深めることに加え、活動障害に関する各自の研究テーマに沿った知見を広げ、臨床的研究法について学修する。</p> <p>（★久保田茂希教授）先行研究データに基づき、自らの研究の位置づけを整理し、研究手法（量的研究手法）について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法をディスカッションを通じて学修する。</p> <p>具体的には、活動障害に対する実践研究について、様々なフィールドから研究を読み解きながら学び、科学的に評価・測定・分析・評価を行う。また、それらをまとめ、今後の活動障害に対する介入において必要と考えられる研究の立案、実施を想定した発表を行う。</p>

授業科目名	講義等の内容
活動障害治療・介入学特論	<p>作業療法学の臨床上の有用性や新たな取り組み、介入方法などについて、白石英樹は全体を統括し、井出教授及び非常勤講師の村木敏明先生、吉田直樹先生とともに分担講義する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★白石英樹 教授) 国内・外での作業療法における治療(介入)と評価及び効果について、基礎的研究や臨床的研究(調査的・実験的・症例研究など)から議論・分析を行い学修する。</p> <p>(井出政行教授) 諸外国の精神保健や精神医療の背景にある文化、歴史や制度について講義する。</p>
活動障害治療・介入学特論演習	<p>特論の講義をさらに深めるため、特論での講義の知識に基づいて演習を通して臨床的研究の実際を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★唯根弘 准教授) 臨床や事例報告などにおける治療的介入・評価や活動の根拠について各障害の特性と治療的介入・評価で求められる動きや活動の分析(文献データベースを用いた解析を含む)を行い、学修を進める。</p> <p>(井出政行教授) ケースカンファレンスを通じて地域での精神障害リハビリテーションを取り巻く問題についての理解を深める。</p>
地域支援作業療法学特論	<p>地域作業療法について、わが国の制度や施策からその位置づけを学修すると共に、現在実施されている研究、今後必要とされる研究について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★堀田和司教授) 主に、公的資料、公的データを中心に、検索・活用の方法、読み解き方を学修すると共に、作業療法領域で必要となる研究デザイン、解析について学修する。</p> <p>地域作業療法に関連する問題について、関連論文の検索方法から、論文の読み解き方(研究計画、デザイン、方法)について学修する。</p>
地域支援作業療法学特論演習	<p>地域支援作業療法学特論で習得した知識に基づき、作業療法研究において、国の制度や施策に適合した、必要とされる研究、影響力を持つ研究とは何かを演習を通じて学修する。</p> <p>(★若山修一准教授) 主に、公的資料、公的データに基づき、自らの研究の位置づけを整理し、作業療法領域で必要となる研究手法(量的研究手法)について、研究計画、研究デザイン、実施、解析の方法をディスカッションを通じて学修する。</p> <p>地域作業療法に関する問題について、国の制度や施策に関連する論文から、その読み解き方(研究計画、デザイン、方法の整理、要点のまとめ方)と研究への応用について演習を通じて学修する。</p>
リハビリテーション教育学特講	<p>卒後3年を目途に、理学療法士・作業療法士が医療専門職として修得しているべき知識・技能を考え、そこに至る過程を考えることにより、学内教育および臨床実習教育が備えるべき教育内容に関する理解を深める。同時に、診療参加型臨床実習の理念と方法を学び、学内教育と新任教育を如何に連続させるかについて考察する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>キーワード：医療専門職教育、学内教育、臨床実習教育、診療参加型臨床実習、新任教育</p> <p>(★堀田和司教授、松田智行准教授、白石英樹教授、浅川育世教授、藤田好彦准教授、篠崎真枝准教授、若山修一准教授、唯根弘准教授)</p>

【放射線技術科学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
画像検査技術学特論 <small>(実践技術学分野)</small>	<p>画像検査技術学は、画像検査機器やそれらを用いた検査法といった広範な内容を含んでいる。また、画像処理技術の進歩により、付加価値が加わり診断能が大きく向上している。本特論では、X線装置、X線CT装置、トモシンセシス、MRI、US、画像再構成等について、その理論や方法について技術的側面から理解し臨床的な意義について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★未定、石森佳幸教授、瓜倉厚志教授、曾我部和美講師、安江憲治助教)</p>
画像検査技術学演習 <small>(実践技術学分野)</small>	<p>近年の医用画像はデジタルデータが標準的となっており、単に画像を取得・表示するに留まらず様々な処理・解析が行われる。本演習ではX線CTやMRIを中心に、サンプルデータを用いて画像の成り立ち、特徴、画像特性を理解する。また、実際の解析処理を行うことでその理論、手順を学修する。履修者の研究課題にあわせて配分は異なることがあります。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★石森佳幸教授、瓜倉厚志教授、五月女康作教授、曾我部和美講師、安江憲治助教、高橋将斗助教、未定)</p>
医療画像情報学演習 <small>(実践技術学分野)</small>	<p>近年の医療画像機器の目まぐるしい発展により画像生成技術は複雑化してきている。医療画像として主にX線画像、MRI、CTの開発から現在までの臨床応用と基本原理を学び、各領域の専門家が画像生成技術、画像処理技術、画像評価・解析技術、実験に必要なファントム作成技術や新たな画像化技術・トレンドまでを包括的に教授する。履修者の研究課題にあわせて配分は異なることがあります。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★五月女康作教授、石森佳幸教授、瓜倉厚志教授、安江憲治助教、高橋将斗助教、未定)</p>
核医学情報解析学特論 <small>(実践技術学分野)</small>	<p>核医学画像は、放射性医薬品の生体内での臓器吸収、分布、代謝、排泄などの機能を可視化したものである。この生体機能画像から臨床に有用な情報を抽出するためには、生体内での生理機能、生化学機能、病態について良く理解したうえで、適切な解析方法を開発、応用するための手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★鹿野直人准教授)</p>
核医学技術学特論 <small>(実践技術学分野)</small>	<p>核医学画像の特徴である臓器の機能解析を通して、核医学検査の臨床的意義について理解する。また、その理論や方法について技術的な側面から理解し、測定値の精度を担保するための手法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★須田匡也准教授、鹿野直人准教授、野坂広樹助教)</p>

授業科目名	講義等の内容
核医学技術 学演習 (実践技術学分野)	<p>核医学画像の特徴である臓器の機能解析を通して、核医学検査の知識を習得することを目標とする。生体内での生理機能、生化学機能、病態を理解したうえで、適切な解析方法を検討する。履修者の研究課題にあわせて配分は異なることがあります。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★鹿野直人准教授、須田匡也准教授、野坂広樹助教)</p>
放射線治療 技術学特論 (実践技術学分野)	<p>放射線治療において治療効果を上げるための方法について学修する。技術的、臨床的な質的保証(QA)の必要性を学び、QAを満足するための具体的な保守管理について学修する。放射線治療における各過程についての質的保証や保守管理を学ぶことで、総合的に治療効果を評価し、治療法の発展に寄与できる能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教、森祐太郎非常勤講師)</p>
先端放射線 治療技術学 特論 (実践技術学分野)	<p>がんに対して様々な放射線治療法が用いられている。これらのさらなる治療成績の向上を目指して、生物学的及び物理学的特性に基づく治療手法の改良、発展について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教、奥村敏之非常勤講師、熊田博明非常勤講師、榮武二非常勤講師)</p>
放射線治療 技術学演習 (実践技術学分野)	<p>放射線治療における照射方法、物理特性および品質管理について、文献の抄読を通して最新の知見、考え方について学修する。また、高精度放射線治療に必要な線量計測、患者セットアップ、線量計算などについて演習を通して学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教)</p>
医療・画像情 報学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、情報理論・信号理論・画像工学を学修し、医療における画像情報を理解する。医療で使用されている画像生成、画像再構成、画像処理について、基本原理および臨床タスクに応じた画像評価について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★瓜倉厚志教授、安江憲治助教、高橋将斗助教)</p>
放射線診断 物理学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、それぞれのモダリティにおける物理的現象をもとに原理等を説明できるとともに、臨床で活用されている応用技術を学修し、放射線を利用した医療における生体情報の可視化について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★五月女康作教授、石森佳幸教授、瓜倉厚志教授、曾我部和美講師、高橋将斗助教)</p>

授業科目名	講義等の内容
核医学物理学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、核医学技術学領域は検査機器や検査技術学のみならず、放射線物理学、基礎医学・生理学、放射線防護、核医学診断学などと密接な関係にあり、その学問領域は多岐にわたる。医学物理士が習得すべき核医学および放射線防護に関する内容を中心に、系統的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★須田匡也准教授、鹿野直人准教授、野坂広樹助教)</p>
放射線防護学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、放射線防護に関する応用技術等を理解する。また、放射線防護の方法論について放射線診断、核医学検査、放射線治療における実務的な理解とともに、関連するガイドラインについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★布施拓准教授、安江憲治助教、宮川真助教、野坂広樹助教)</p>
放射線治療物理学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、放射線治療の物理的現象に基づいて理解する。また、放射線治療時に使用される患者固定具、位置決め装置等についても理解とともに、最新の治療技術、関連するガイドライン、研究など、新たな知見にも目を向け、広い視点から放射線治療物理学について学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教、齋藤秀敏非常勤講師)</p>
放射線計測学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、放射線計測に関する応用技術等を理解する。また、放射線計測の方法論についての理解とともに、関連するガイドラインについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★布施拓准教授、安井啓祐非常勤講師)</p>
臨床放射線治療学演習 (医学物理学分野)	<p>臨床の放射線治療に携わるための放射線物理学の理解、放射線の線量測定、放射線の生物作用、正常組織、腫瘍組織の放射線に対する反応、病理学的理解、放射線治療法などについて、文献の抄読を通して最新の知見、考え方について学修する。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同)</p> <p>(★藤崎達也教授、宮川真助教、菅原信二非常勤講師)</p>
医学物理学特論 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、医学物理士に必要な基礎から実践までの医学物理学を学修する。基礎として力学、電磁気学、熱力学・統計力学、量子力学および原子核物理学の内容から、実践として、実際のさまざまな線源からの線量計測や体内線量分布、放射線機器の品質保証・品質管理、画像処理・放射線治療計画などを学修する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、布施拓准教授、宮川真助教、安江憲治助教、村石浩非常勤講師)</p>
医学物理学実習 (医学物理学分野)	<p>医学物理教育ガイドラインの内容に準拠して、医学物理士として必要な放射線防護学、放射線診断物理学、核医学物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、医療・画像情報工学に関する学内外での実習と進捗報告(確認)を行い、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同)</p> <p>(★藤崎達也教授、布施拓准教授、宮川真助教、安江憲治助教)</p>

【医科学領域応用科目】

授業科目名	講義等の内容
教育実践特論	<p>健康教育や保健医療系教育など広義の教育に関わる実践的知識および技能、ならびに教育に必要なコミュニケーション技能について、教育心理学的な観点から学ぶ。論文や書籍等の文献のクリティークを中心の授業を行う。</p> <p>(★佐藤純教授)</p>
医科学の最先端と研究応用	<p>本講義では、現代医科学の最先端に位置する研究成果とその応用事例を紹介しながら、研究者としての視点と応用力を養う。基礎医学の主要なテーマに加え、AIをはじめとする先進的な分析手法にも触れる。</p> <p>(★濱田理人教授)</p>
臨床医学の最前線	<p>医工連携最前線、内科学の最前線、整形外科の最前線、リハビリテーション医学の最前線、小児神経科学の最前線、スポーツ医学の最前線、救急・災害医療など、臨床医学の最前線を概説する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★河野了教授、松元秀次教授、中山智博准教授、六崎裕高教授、大坂佳子講師)</p>
公衆衛生学特論	<p>地域看護学において重要である疫学を中心に、環境衛生、衛生行政等の公衆衛生学的立場から、地域保健医療活動を教授する。具体的には、学部における「衛生・公衆衛生学」を基盤に、地域住民の疾病予防、健康増進、高齢者の健康保持、共通科目「環境医科学」に基づく感染予防対策などの側面から、地域へ貢献可能な方法論を教授する。</p> <p>(集中講義)</p> <p>(★桜井直美教授)</p>
基礎神経科学特論	<p>脳神経科学の発展の土台となる神経科学領域の最前線を学ぶことを目標とし、神経特異的な細胞間応答システム、細胞内輸送機構、細胞移動制御、発生・発達制御等の基礎的知識の学習をもとに、実際の神経変性疾患との関連性についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>キーワード：細胞間応答システム、細胞内輸送機構、細胞移動制御機構、発生・発達制御機構、エピジェネティクス制御、神経変性疾患、脳の可塑性と機能回復、モデル動物の解析と臨床応用</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★内田敦子教授、久永真市非常勤講師、石井大典非常勤講師</p>
先端ニューロサイエンス特論	<p>高次機能の評価、病態の解明、非侵襲的解析方法の開発、最新の脳波や機能的MRIなどの計測方法やグラフ理論、シナジー解析など新たな解析方法を紹介しながら、脳科学の基礎からアルツハイマー病や外傷性脳損傷による高次脳機能障害について、受講者と議論しながら主体的に学修する。</p> <p>キーワード：非侵襲的解析方法、脳波、機能的MRI、グラフ理論、シナジー解析、アルツハイマー病、外傷性脳損傷、高次脳機能障害、画像解析</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>★河野豊教授、内田敦子教授、青山敏之准教授、山本哲准教授</p>

授業科目名	講義等の内容
ライフサイクルとメンタルヘルス	<p>メンタルヘルスとは心の健康はもとより心の病気まで含む幅広い概念であり、生物学的、心理学的、社会的な要因の影響を受けるものである。われわれは人生の各ステージにおいて様々な体験をするが、それらはメンタルヘルスに影響を及ぼす。そのため、メンタルヘルスを維持または向上させるためには、ライフサイクルの視点を持つことが重要である。そこで、本講義では、オムニバス方式により、各ライフサイクルの段階におけるメンタルヘルスの基礎的知識と、生物学的な視点に基づく画像診断とメンタルヘルスの関連についての基礎的知識を享受する。ライフサイクルの段階としては、小児期、青年期、成人期、高齢期を想定する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★井出政行教授、中山純子准教授、佐藤純教授)</p>
生体情報解析学特論	<p>生体情報をコンピュータ・ネットワークから入手し、活用する方法を学ぶ。文献管理ソフトの活用法、遺伝子、タンパク質情報、タンパク質の立体構造、放射性核種のデータベース利用法、化学構造式の編集アプリの紹介など研究の遂行に役立つような内容を予定している。また、マクロ(VBA)等を用いたプログラミングでソフトウェアを自作することで、エクセル、ワード、パワーポイント等の制御をすることを学び、研究に活用することの有用性を学ぶ。さらに、各自が関心をもつテーマについて、コンピュータ・ネットワークの活用事例の調査等を行い発表を行う。研究遂行上必要なアプリがあれば、可能な範囲で作成のためのアドバイス等を行う。</p> <p>(★相良順一准教授)</p>
物理療法の最前線	<p>温熱療法、温泉医学、水治療、振動刺激、電気刺激療法といった古い歴史をもつ物理療法を見直し、近代医学・医療にあわせた新しい物理療法の魅力を発信し、概説する。</p> <p>(★松元秀次教授、久保田茂希教授、平沢伸広講師、野間知一非常勤講師、豊栄峻非常勤講師)</p>
最新放射線医学特論：機能画像診断およびtheranostic imaging	<p>機能画像は、臓器の機能の状態を「見える化」する技術である。脳のfunctional MRIや神経トラクトグラフィはその代表例で、神経科学の発展に貢献してきた。また、theranosticは、therapeuticとdiagnosticとを組み合わせた造語である。例えば、細胞表面の分子標的に集積する薬剤を、ガンマ線を放出する放射性同位体でラベルし、標的分子の体内分布をイメージングしたり、並行して、同じ薬剤をベータ線やアルファ線を放出する放射性同位体と結合させたりして、がんの個別化医療、分子標的治療が実現する。このようにイメージングプローブとしても、治療薬としても用いることができる薬剤の開発やその臨床応用は、がんの研究、診療分野で近年特に、注目を集めている。本講座では、こうした放射線医学領域の最新技術を概説する。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★山口雅之教授ほか、国立がん研究センター、産業技術総合研究所、他から外部講師を予定)</p>

【 特別研究 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
特別研究	<p>本科目は、修士研究を遂行するための基礎的研究能力を養成することを目的とする科目である。指導教員の指導の下、研究ゼミ等に参加し、研究課題の設定過程、研究方法の基本的考え方、データの解釈方法、研究倫理の在り方などについて学び、研究の基本的枠組みを理解する。</p> <p>本科目では、文献の適切な読解、先行研究の整理、研究デザインの基礎的検討、データ収集および解析手法の習得を通して、修士研究を計画的に遂行するための基盤的能力を身につける。また、エビデンス（科学的根拠）に基づく実践や臨床現場で生じる課題を踏まえ、以下の能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究を踏まえて研究課題を明確化できる能力 ・ 科学的方法に基づき、指導の下で研究計画を立案・実施できる能力 ・ 基本的なデータの整理・解析および結果の解釈ができる能力 ・ 研究成果を論理的にまとめ、学内外で発表できる能力 ・ 研究倫理を理解し、適切に行動できる能力 <p>これらを通して、論理的思考力、表現力、批判的検討能力を備えた高度専門職業人の育成を目指す。本科目で養われる問題解決能力は、臨床実践の質の向上や職場における実践的改善活動にも活用されることが期待される。</p>

【博士前期課程】

指導教員と研究概要

指導教員と研究概要（看護学領域所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 笹原 朋代 sasaharatoatipu. .ac.jp	がん患者や緩和ケアを必要とする人々が、最期までその人らしく尊厳を保って生活するための支援のあり方やケアサービスの提供体制、看護師の教育に関する研究を行う。	がん・緩和ケアにおける看護実践に関する研究
		緩和ケアの質の評価に関する研究
		エンド・オブ・ライフ・ケアに携わる看護師への教育に関する研究
教授 富田 美加 tomitamatipu.ac. .jp	看護におけるデータや情報、知識について、EBP(evidence-based practice)やオープンサイエンスの観点から課題を明らかにし、人々の健康に寄与するための方策を探究する。	ヘルスケアにおける学術情報リテラシーに関する研究
		看護学におけるオープンサイエンスに関する研究
教授 中村 博文 nakamurahiratip u.ac.jp	精神保健看護及び地域精神保健活動における看護援助の方法論的な確立に向けた研究を行う。精神看護学的介入の実施・評価・教育を担い得る能力を修得するための課題に取り組む。また、精神看護学教育のあり方についての理論および方法論の研究も取り扱う。精神看護専門看護師の役割とその具体的介入方法についての研究等も扱う。	精神科看護の臨床実践についての研究
		精神看護学における教育と医療の連携に関する研究
		精神障がい者の社会復帰・社会参加に関する研究
教授 藤岡 寛 fujiokahatipu.a c.jp	様々な疾患・障害・発達段階・社会背景をもつ子どもへの援助方法を探究する。特に、子どもの生活基盤である「家族」に注目する。各家族員や家族全体のユニット等の多角的な視点で家族機能を把握、評価する。	長期入院が子どもや家族に及ぼす影響
		在宅で障害児を養育している家族の生活調整、障害受容
教授 山波 真理 yamanamimatipu. ac.jp	ウイメンズヘルス看護領域において、周産期のケアや産後のヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルスに関する研究を行い、その支援方策を探究する。	周産期ケアの実践についての研究
		リプロダクティブヘルスに関する研究
		母性看護学・助産学教育に関する研究
准教授 大江 佳織 oekatipu.ac.jp	成人看護学領域において、臨床看護実践やヘルスプロモーションに関する研究を行い、その支援方策を探究する。	成人を対象にした臨床看護実践に関する研究
		ヘルスプロモーション・健康教育に関する研究
准教授 笠井 久美 kasaikatipu.ac. jp	疾病や障害のあることもと家族への支援や、子育て支援の研究を行い、その方策を検証する。	疾患や障害のある子どもの健康維持・増進に関する研究
		疾患や障害のある子どもをもつ親の育児支援に関する研究
		小児における継続看護についての研究
准教授 山海 千保子 sankaicatipu.ac. .jp	母親の心理面に関することで、母親の育児ストレスや、その対策についての研究を行い方策を検証する。また、助産師教育・看護師教育に関する研究。	心理療法を参考にした育児ストレスを軽減する研究
		母親の心理的負担の原因に関する研究
		母性看護基礎教育に関する研究
准教授 本村 美和 motomuramatipu. ac.jp	遠隔看護システムの構築、医工連携による新たな医療デバイスの開発、生体データの収集と解析、粘度測定を含む実験研究。「食」に関わるケアについての支援や摂食嚥下障害に関わる研究。看護師の職務満足度、労働環境の改善、患者への質の高い医療サービスの提供など看護管理分野に関わる研究	遠隔看護システムなどに関わる研究
		食事支援などに関わる研究
		看護管理における人材育成、能力開発などに関わる研究
准教授 渡辺 忍 watanabeshinoat ipu.ac.jp	介護保険制度による医療依存度の高い要介護高齢者への看護や介護サービスにおける課題を明らかにするため量的・質的研究を行う。	医療・介護サービス間の連携に関する研究
		要介護高齢者の医療的ケアに関する研究
		介護サービスで働く看護職に関する研究

指導教員と研究概要（理学療法学領域所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 浅川 育世 asakawayatipu.a c.jp	主に障害者の活動制限、参加制約に関する基礎および臨床的研究を行う。	障害者の活動制限、参加制約に関する臨床的研究
		新たな活動制限、参加制約の評価指標の開発
		活動制限、参加制約に対する効果的な理学療法介入の検討
		国際生活機能分類のコーディングシステムの活用に関する研究
教授 上岡 裕美子 ykamiokaatipu.a c.jp	(1)地域在住の高齢者・障害者への理学療法の知識・技術の適用について、評価方法、効果検証に関する臨床的調査研究を行う。 (2)自己発展力の養成を目指した理学療法教育に関する実践的研究を行う（PBL、OSCE）。	訪問リハビリテーションの効果検証に関する臨床的研究
		訪問・通所リハビリテーションにおける活動・参加の目標共有と達成度評価による効果の検証
		理学療法教育における客観的臨床能力試験（OSCE）実施方法の確立
		問題基盤型学習（Problem-based learning:PBL）による教育効果の検討
教授 滝澤 恵美 takizawaatipu.a c.jp	人の運動機能は、ヒトとしての身体構造に基づく制約のなかでそれぞれの身体活動に基づく運動特性に応じて成長および発達、または老化することで個性を持つ。運動機能の個性と身体活動との履歴の関係を、児童および高齢者を中心に疫学的研究による特性分析、あるいは介入研究を行い運動解析、動作解析を行う。	運動の調整力（協調性）、基本的動作の変化からみた学童期における運動遊びの意義に関する研究
		運動器検診の結果に現れる発達特性に基づく身体活動に関する研究
		加齢に伴う歩行の変化と自己調整力に基づく理学療法介入に関する研究
		嚥下・呼吸リハビリテーションに関する基礎的・臨床的研究
教授 富田 和秀 tomitakatipu.ac .jp	嚥下・呼吸リハビリテーションに関する基礎および臨床的研究を行う。	随意呼吸のフィードバック制御を用いた呼吸リハビリテーションの研究
		胸壁振動反射を併用した呼吸リハビリテーションの開発
		脊髄損傷者の呼吸運動回復機序と呼吸リハビリテーション
		車いすバスケットボールにおけるパフォーマンス改善のためのトレーニング方法の開発
教授 橘 香織 tachibanaatipu. ac.jp	障がい者スポーツ、特に車いすを使用するスポーツの普及、育成、競技力向上に資することを目的とした基礎および臨床的研究を行う。	車いすバスケットボールの客観的クラス分け手法の開発のための動作解析研究
		地域における障がい者スポーツの普及振興に関する研究
		脳卒中片麻痺患者における歩行の筋電図学的分類の確立に関する研究
		視覚刺激による運動錯覚や運動イメージ想起法を用いた介入法の効果検証
准教授 青山 敏之 aoyamatoatipu.a c.jp	神経科学的手法や運動学的手法、筋電図学的手法を用いることで中枢神経疾患や運動器疾患、スポーツ障害など様々な領域におけるリハビリテーションの評価や治療の開発に関わる基礎研究や臨床研究を行う。	運動単位抽出法による神経筋機能の解明に関する研究
		経頭蓋磁器刺激や末梢神経電気刺激、経頭蓋直流電気刺激等の手法を用いたヒトの運動制御機構解明に関する基礎的研究
		イップスの病態解明と治療法の開発に関する研究
		リハビリテーション専門職における臨床教育および理学療法教育の効果検証、教育システムの開発を行う。
准教授 篠崎 真枝 shinozakiatipu. ac.jp	リハビリテーション専門職における臨床教育および理学療法教育の効果検証、教育システムの開発を行う。	リハビリテーション専門職の臨床教育に関する研究
		理学療法教育における教育技法・方略の検証
准教授 松田 智行 matsudatoatipu. ac.jp	わが国の保健医療福祉制度において、理学療法が必要な人に必要な理学療法サービスが提供されているか、また、理学療法の質が確保されているかを、ヘルスサービスリサーチの手法を用いて評価・検証を行う。	介護保険制度における理学療法サービス
		医療制度（特に難病法）における理学療法サービス
		地域包括ケアシステムにおけるサービス提供体制の検証
准教授 山本 哲 yamamosatipu. ac.jp	中枢神経障害患者を対象とし、脳機能イメージングや、医工連携により新規開発されたデバイスを用いて運動機能障害のメカニズムを解明するとともに、効果的な運動療法の構築に関わる研究指導を行う。	脳機能イメージングや非侵襲的脳刺激法を用いた中枢神経障害患者の回復メカニズムの解明と介入方法に関する研究
		ウェアラブル歩行測定システムの開発および臨床応用に関する研究
		生活期における身体活動量増大を目指した統合的なウェアラブル測定システムの開発
助教 柴田 聡 shibatasaatipu. ac.jp	スポーツ外傷・障害の予防方法の検討や、外傷・障害後の効果的なリハビリテーション・コンディショニング方法の検討を行う。	スポーツ外傷・障害のメカニズムとリスクファクターの検証
		スポーツ外傷・障害後のリハビリテーションと競技復帰基準の検討
		競技力向上に向けたトレーニングやコンディショニング方法の検討
助教 瀬高 裕佳子 okunoyuatipu.ac .jp	画像診断・呼吸機能検査・疫学調査等の手法を用いた呼吸リハビリテーションに関する臨床研究を行う。	生理学的見地からみた呼吸リハビリテーションの検証
		咳嗽機能向上に向けたケア/リハプログラムに関する研究 茨城県内における呼吸リハビリテーションの実態調査および地域連携の構築に関する研究

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
助教 宮田 一弘 miyatakatipu.ac.jp	(1) リハビリテーションで用いられるアウトカムメジャー（パフォーマンステストや質問紙）の検証や開発、臨床活用に関する研究指導を行う。 (2) 診断・予後予測モデルの開発・検証に関する研究指導を行う。	尺度特性（妥当性・信頼性・反応性）に関する研究
		臨床的に意義のある最小変化量（MIC）を推定する研究
		予測モデルの開発・検証
助教 河村 健太 kawamurakatipu.ac.jp	急性期領域におけるリハビリテーションによる回復メカニズムの解明、有効なトレーニングの開発を目指した基礎研究・臨床研究を行う。 呼吸生理学・運動生理学的側面からリハビリテーションの有効な評価やトレーニング開発を目指した基礎研究・臨床研究を行う。	敗血症後の新しいトレーニング手法の開発
		頸髄損傷による呼吸機能障害の回復メカニズム解明
		生理学・運動学的データによる運動強度予測モデルの開発

指導教員と研究概要（作業療法学領域所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 久保田 茂希 kubotashiatipu. ac.jp	脳血管障害、脊髄損傷における中枢性運動機能障害、および運動器疾患に伴う運動機能障害に対して、上下肢装着型動作支援ロボット技術を用いたロボットリハビリテーション治療を実施し、その訓練実行可能性、安全性、有効性について検証を行う	上下肢装着型ロボットを使用したロボット訓練の安全性に関する研究
		上肢ロボットを使用したロボット訓練の有効性と電気生理学的評価に関する研究
		脊髄損傷者に対するロボット訓練の実行可能性、有効性に関する研究
教授 齋藤 さわ子 saitosatipu.ac.jp	(1)人と作業と健康・幸福の関係を調べることにより、作業機能の発達促進法、作業機能障害の改善法・予防法、作業を用いた健康促進方法を探索する。 (2)作業習得のプロセスを探索することで、効果的な作業の可能化の戦略を開発する。	作業の習得・維持・再習得に関する研究
		作業の意味・形態・機能と健康・幸福の関係に関する研究
		作業を基盤とした評価法の開発とその実践における有用性の研究
教授 白石 英樹 shiraishihatipu. ac.jp	身体障害領域における作業活動の解析や作業療法介入の効果について、各種機器などを用いて定量的に検証を行う。また、手の機能についても様々な角度から調査・検討を行う。	身体障害に対する作業療法（作業活動）介入の生理的・身体的・治療的效果に関する研究
		様々な活動に対する定量的測定分析に関する研究
		手の機能やスプリント・装具の治療的介入に関する研究
教授 堀田 和司 hottaatipu.ac.jp	地域および高齢期作業療法領域における作業療法介入の効果について、縦断的および横断的研究手法を用いて定量的検証を行う。	高齢期作業療法領域における作業療法介入の効果に関する研究
		介護予防事業による効果の測定・評価
		地域在住高齢者の健康に関する研究
		高齢者、障害者スポーツ
准教授 藤田 好彦 fujitayatipu.ac.jp	作業療法士として身体活動量の増加や座位行動時間の短縮を目的とした介入効果についての定量的な検証を行う。	介護予防事業における介入効果に関する研究
		地域高齢者における身体活動に関する研究
准教授 若山 修一 wakayamasatipu. ac.jp	地域作業療法領域において、高齢者を対象とした介護予防や健康増進を目的としたプログラムの開発、介入効果についての検証を行う。	地域高齢者における閉じこもり予防・支援に関する研究
		地域高齢者における生活機能向上プログラムの開発に関する研究
准教授 唯根 弘 yuinehatipu.ac.jp	脳卒中後上肢麻痺やハンドセラピー対象疾患において、上肢機能と生活行為の関連や作業療法介入の効果について調査・検討を行う。事例研究やシステマティックレビューを通して、作業療法士と連携し課題志向型アプローチや生活行為向上マネジメントの効果検証を行う。	上肢機能評価・介入に関する研究
		課題志向型アプローチ、生活行為向上マネジメントに関する研究
		作業療法評価・介入のシステマティックレビュー、メタアナリシス

指導教員と研究概要（放射線技術科学領域所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 石森 佳幸 ishimoriatipu.ac.jp	医用画像診断における新技術の開発や評価に関する研究を行う。特にMR撮像技術を中心に、画質改善にかかわる技術的要素の最適化や安全性の評価に関する研究を行う。	MRI撮像技術の最適化に関する研究
		医用画像検査の画質や安全の評価に関する研究
教授 瓜倉 厚志 urikuraatipu.ac.jp	X線CTのをはじめとした画像診断機器を用いた画像解析、造影技術、診断タスクに対応した画像評価に関する研究を行う。	X線CTの線量と画質に関する研究
		X線CTの画像解析に関する研究
教授 五月女 康作 saotomekoatipu.ac.jp	産学連携または産学官連携で既存技術の発展や既存技術・概念に捉われない開発と発信を出口に据えた研究に取り組む。特に新規ファントム開発やダイナミクスな脳機能変化を捉える新技術の開発、さらに放射線の正しい理解を広めるための科学的アプローチなどに係る研究を行う。	医工連携による新規ファントム開発やダイナミクスな脳機能変化を捉える新技術の開発
		放射線の正しい理解を広めるための科学的アプローチなどに係る研究
教授 藤崎 達也 hujisakiatipu.ac.jp	高精度な放射線治療を実施するための照射法、セットアップ法、治療計画法、吸収線量計算法、精度管理法などの開発・改善を目的とした研究を行う。	放射線治療システムのQAに関する研究
		4次元放射線治療法の開発
准教授 鹿野 直人 shikanoatipu.ac.jp	セラノスティクス（Theranostics＝治療Therapeutics＋診断Diagnostics）を意識した放射性医薬品に関する基礎的研究および応用的研究を行う。	中性子捕捉療法（BNCT）によるがん治療への放射性医薬品の臨床・基礎利用に関する研究
		ガン、脳機能、動脈硬化、腎機能を診断目的とした放射性医薬品の基礎開発
准教授 布施 拓 fusehatipu.ac.jp	医療における被ばく線量の管理や放射線計測に関する研究指導を行う。	モンテカルロシミュレーションを用いた医療における被ばく線量の推定と放射線安全管理に関する研究
		医療で用いられる放射線計測に関する研究
講師 曾我部 和美 sogabeka@ipu.ac.jp	マンモグラフィ（2D）およびマンモグラフィトモシンセシス（DBT）を対象に、臨床画像ならびにファントム画像を用いた画像評価・画像解析に関する研究を行う。撮影条件、画像処理・再構成条件が画質（解像特性、ノイズ特性、コントラスト等）および診断能に与える影響を定量的に評価を行う。	マンモグラフィトモシンセシス（DBT）における撮影・再構成条件の最適化と画質評価に関する研究
		臨床画像を用いたマンモグラフィ（2D/DBT）の画像評価・画像解析および診断タスクに基づく性能評価に関する研究
助教 安江 憲治 yasueke@ipu.ac.jp	Python等のプログラミングやモンテカルロシミュレーションを用いたDRの画像解析手法や線量最適化に関する研究を行う。	DRの非線形画像に対応した画質評価法に関する研究
		モンテカルロシミュレーションを用いたDRの線量最適化に関する研究

指導教員と研究概要（医科学領域所属教員分）

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 井出 政行 idemaatipu.ac.jp	(1)経頭蓋磁気刺激誘発脳波などの手法を用いて、精神疾患の生物学的なバイオマーカーの探索や、病態生理の解明を目指す研究を行う。 (2)軽度認知機能障害(MCI)の高齢者に対する福祉的就労が認知機能が生活機能維持に及ぼす効果を調べ、認知機能が低下しても就労を継続する方法を探る。	経頭蓋磁気刺激誘発脳波を用いた精神症状の評価
		軽度認知機能障害者(MCI)の福祉的就労に関する研究
教授 河野 了 kawanosaatipu.ac.jp	心不全、敗血症などの急性疾患のメカニズムと治療を、主に分子生物学的手法を用いて探索することをめざす。日常診療におけるクリニカルクエスションの生理学的解明のために、各種生理検査や画像検査を用い臨床研究を行う。	循環器病患者の治療、臨床に関する研究
		敗血症の病態と治療方法に関する分子生物学的手法の検討
		回復期リハビリテーション病院における総合診療の役割の検討
教授 河野 豊 kohnoatipu.ac.jp	(1)神経生理学的手法(脳波、誘発筋電図、経頭蓋磁気刺激法など)を用いて、運動制御や運動障害の発現の機序解明、神経可塑性を誘導するメカニズムに関する基礎的および臨床的研究を行う。 (2)神経難病患者や高次脳機能障害者の支援や医療ネットワークに関する研究を行う。	電気生理学的手法を用いた運動障害の病態解明に関する研究
		ニューロリハビリテーションに関する研究
		経頭蓋磁気および直流電気刺激法を用いた機能評価や神経可塑性に関する基礎研究
		神経難病患者や高次脳機能障害者のニーズや支援状況に関する研究
教授 桜井 直美 sakuraiatipu.ac.jp	地域住民の疾病予防、健康増進の観点から、感染症対策、感染予防について研究を行う。	地域における耐性菌サーベイランス
		保健・医療・福祉の連携における地域包括的な感染予防対策
教授 濱田理人 hamadamiatipu.ac.jp	納豆は日本に古くから伝わる伝統的な発酵食品であり、疫学研究から全死亡率の減少との関連が示されているものの、その分子メカニズムは十分に解明されていない。本研究では納豆の健康増進効果の解明を目指し、消化管において最初に納豆成分と接触する免疫細胞であるマクロファージの機能変化と応答機構を解析する。	食品機能性因子によるマクロファージ活性制御メカニズムの統合的解析
教授 松元 秀次 matsumotoshatipu.ac.jp	麻痺や、歩行障害、嚥下障害をよくするリハビリテーション治療を開発し、その治療効果を検証する。また、病態発症機序との関係から治療効果発現のメカニズムを明らかにする。	臨床神経生理学的手法を用いたリハビリテーション医療の解明
		ニューロリハビリテーション治療の開発
		神経筋電気刺激のリハビリテーション医療への応用と開発
教授 六崎 裕高 mutsuzakiatipu.ac.jp	運動器疾患(変性疾患、小児疾患、脊髄損傷、スポーツ傷害等)において、運動学的手法を用いて疾患の発症メカニズムを解明するとともに、様々な治療・リハビリテーションの効果を検証する。さらに新しい治療・リハビリテーションを開発する。	変性性膝関節症における運動学的手法と画像解析を融合させた発症メカニズムの解明
		変性性膝関節症における腱硬度と歩行能力の関連
		人工関節後患者、小児疾患患者へのロボットリハビリテーション介入効果の検証
		前十字靭帯損傷後早期手術の下肢筋力、復帰後スポーツレベル、復帰時期への影響
教授 山口 雅之 yamaguchimaatipu.ac.jp	インビロ画像診断は、脳、神経、筋肉の構造や生理学的機能を非破壊的に調査するために不可欠な技術である。当研究室は、新しい画像診断法の開発に取り組むことによって、脳神経科学、整形外科、リハビリテーション医学におけるアンメットニーズに対応する革新的な医療機器や治療法の創出に貢献する。具体的には、本学付属病院や茨城県内の協力機関において、高性能のMRIを利用し、筋肉の質の可視化法、果汁を用いた嚥下造影、脳神経のマイクロイメージングの開発を目指す。	サルコペニア診断機器開発に資する筋肉の質の可視化の研究
		被ばくのない嚥下造影法の開発
		MR I 顕微鏡の開発
教授 内田 敦子 uchidaatipu.ac.jp	個々の細胞の脆弱性が癌転移や神経損傷に与える影響について、細胞骨格蛋白に着目し、分子細胞生物学的、およびバイオエンジニアリング的手法を駆使して解明する。さらに細胞自らが持つ外的メカニカルストレス耐性を生み出す構造を可視化し、損傷が乗る過程をリアルタイムにとらえ観察することで詳細な仕組みを明らかにし、そこから得られた知見をもとに、メカニカルダメージに強い、新たな生体材料、トレーニング方法等の開発を目指すとともに、ALSをはじめとする軸索変性疾患の発生機構を明らかにする。	癌転移や神経損傷に関連する、中間径フィラメントの力学的強度の定量、バイオマーカーとしての信憑性についての検証
		ALSをはじめとする軸索変性疾患の病態と発症機構の解明
		神経細胞へのメカニカルダメージと細胞骨格の関連性、並びに圧迫性末梢神経損傷時に有効なポジショニング、動作の検討

職名・氏名・連絡先	研究分野の概要	研究指導テーマ
教授 才津 芳昭 saituatipu.ac.jp	主として社会学の知見に基づき現代医療の諸問題に対する理論的・実証的研究を行う。	家族社会学
		格差社会における健康格差・医療格差
		医療技術が人間や社会に与える影響
教授 佐藤 純 satoujatipu.ac.jp	精神的健康を維持・向上するための心理学的援助方法の探求、ならびにそのための基礎的調査研究を行う。	援助要請・自己援助志向性に関する研究
		青年期のキャリア発達過程に関する研究
		死の自己決定に関する研究
教授 大槻 曜生 otsukiak@ipu.ac.jp	生活習慣の改善による国民の健康増進を目指し、実験室的研究からヘルソコミュニケーション研究まで幅広くテーマにしている。これまで、運動時のエネルギー供給機構、ストレッチング時の筋血液量の変化、月経周期に伴う血管伸展性の変動などの生理応答を扱ってきた。また、アンケート・インタビュー調査を用いて、予防情報のニーズが高い対象者や情報提供手段の検討、医療者への相談を躊躇う要因に基づいた相談促進メッセージの開発なども行っている。健康を身体・心理・社会の観点から多面的に捉え、実社会で活用可能な知見を創出する。	伸長刺激による末梢循環の適応の解明
		月経周期に伴う循環調節の検討
		疾患横断的予防方法の普及研究
		患者-医療者間コミュニケーションを促進する情報の開発
准教授 相良 順一 sagaraatipu.ac.jp	地球上の生物は常に酸素の酸化力に脅かされている（酸化的ストレス）。細胞は抗酸化力によってそれに対抗している。中枢神経系も例外ではない。培養神経細胞、グリア細胞を用いて、中枢神経系の抗酸化機構の研究を行う。	神経細胞・グリア細胞間の抗酸化機構の調節に関する基礎研究
		神経系疾患と酸化的ストレスの関係の基礎研究
		中枢神経系細胞を用いた抗酸化物質のスクリーニング
准教授 中山 純子 nakayamaatipu.ac.jp	小児期には染色体異常などの遺伝的な先天性疾患が比較的多い。現在の医学ではそれらの疾患を根治させることはできないが、精神運動面の発達の遅れを伴うことが多く、リハビリテーションが重要となる疾患である。けいれん性疾患は小児の神経疾患のなかで最も頻度が高く、その一部には遺伝的な素因が関与していることが知られている。当大学付属病院小児科では、脳性麻痺を含む重症心身障害児、てんかん、神経発達障害などの治療にあたっており、これらの患者を中心として、小児神経分野の疾患の疫学的、臨床的な研究、基礎的な研究を行う。	小児けいれん性疾患における遺伝学的研究
		小児遺伝性疾患患者に対するリハビリテーションの研究
准教授 中山 智博 nakayamatoatipu.ac.jp	小児神経分野の疾患は、未だ未解明な部分も多い。例えば近年患者の増加が懸念されている神経発達障害は、その実数、病態はまだ明らかでなく、治療法は確立されていない。当大学付属病院小児科では、脳性麻痺を含む重症心身障害児、てんかん、神経発達障害の治療にあっている。これらの患者を中心として、小児神経分野の疾患の疫学的、臨床的な研究、ミトコンドリア機能測定やメタボローム解析を用いた基礎的な研究を行う。さらには、これらの疾患に関して医療系専門職が直接患者や家族、学校関係者、地域医療サービスと関わることで患者の生活の質を高める方策を検討する。	脳性麻痺を含む重症心身障害児に関する研究：筋緊張亢進や側弯進行予防に対する効果的な介入に関する検討
		てんかんに関する研究：効果的な薬物治療およびその補助療法の検討
		神経発達障害に関する研究：疫学的調査、画像検査を用いた病態解明
准教授 膳法 浩史 zenpouhi@ipu.ac.jp	超高齢社会における大きな課題の一つは、加齢に伴う筋量・筋力の低下、いわゆるサルコペニアの進行である。サルコペニアは転倒・骨折、要介護状態のリスクを高め、健康寿命の短縮につながることから、そのメカニズム解明と予防法の確立が急務となっている。骨格筋の遺伝子発現やオミクス解析を用いて、サルコペニアの発症メカニズムを多角的に解明する研究を進める。さらに、遺伝子多型や骨格筋の遺伝子・タンパク発現など、多様なオミクスデータを扱い、疾患や運動能力の個人差の理解に基づく精密な健康科学の発展を目指す。	骨格筋の機能低下（サルコペニア）・スポーツ傷害のメカニズム解明
		大規模データ×オミクス解析による疾患予防研究
講師 大坂 佳子 osakayoatipu.ac.jp	麻酔分野では安全管理が重要な課題のひとつである。全身麻酔管理で重要な気道管理法について、また術中術後疼痛管理法である硬膜外麻酔・神経ブロックの安全性を向上するために穿刺法の改良や局所麻酔薬の薬剤相互作用などについての研究を行う。	硬膜外麻酔・神経ブロックの安全向上に関する研究
		気道管理における多種デバイスの患者状態別の適応と工夫の検討

【博士後期課程】

1 理念・目的

茨城県立医療大学大学院保健医療科学研究科博士後期課程保健医療科学専攻は、多職種の協働による利用者・患者中心の保健医療の実践及びその科学的根拠の構築を目指すために、博士前期課程で形成された看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、医科学の各学術領域の連携を強化し、これらの領域を統合した1つの専攻により教育研究を行います。

2 学生定員

専攻	領域	入学定員	収容定員
保健医療科学専攻	看護学 理学療法学 作業療法学 放射線技術科学 医科学	5名	15名

3 修業年限

3年（4年を上限とした長期履修制度があります）

4 学位

保健医療科学専攻 博士（保健医療科学）

5 教育課程等

(1) 教育目標

本研究科では、1の理念・目的を達成するため、以下のような教育目標を掲げています。

ア 保健医療の臨地・臨床実践において独自性の高い取り組みを提案し、リーダーシップを発揮することで、利用者・患者中心の保健医療に貢献できる能力を養う。

イ 自立して保健医療科学の科学的根拠を構築するための研究を展開し、学際的研究・国際的研究に寄与できる能力を養う。

ウ 保健医療科学の視点に立ち、大学および大学院教育を担うことのできる能力を養う。

(2) 特色

本研究科の教育課程は、前述の教育目標に基づき、多職種の協働による利用者・患者中心の保健医療の実践及びその科学的根拠の構築のために、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、医科学の各学術領域の連携を強化し、これらの領域を統合した1つの専攻により専門的かつ包括的な教育研究を行うことを特色とし、体系的な教育課程として、「保健医療科学基礎科目群」「保健医療科学連携科目群」「保健医療科学専門科目群」及び「特別研究」の4つの科目区分でカリキュラムを構成しています。

ア 「保健医療科学基礎科目群」は、①保健医療科学に共通する重要な概念を理解・修得し、次世代を担える広い視野を持った高度専門職業人を養うこと、②保健医療科学連携科目群、保健医療科学専門科目群の履修における学術的基盤を築くこと、③国際的研究を視野に入れた実践的英語力を修得させることを目的としています。

このような目的のもとに、保健医療科学基礎科目群には、異なる職種を背景とした学生が、保健医療科学に関する共通の学術的基盤を形成するために有益な講義科目と演習科目を配置しています。

これらの科目を履修することで、次のステップである保健医療科学連携科目群、保健医療科学専門科目群の履修を円滑に進めるとともに、保健医療科学の全体像の理解促進を深めます。

イ 「保健医療科学連携科目群」は、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、医科学の各領域間の融合を図るための科目を配置しています。

保健医療科学連携科目群の各科目は、学生の学際的視野を養うことを目的としており、次のステップである専門科目群に配置されている同名の演習科目の基盤となる知識を修得します。

ウ 「保健医療科学専門科目群」は、保健医療科学基礎科目群、保健医療科学連携科目群で修得したことを応用して、従来の看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、医科学の各領域における知識、技術、考え方を発展させ、より深めるための学修を行います。

各領域が解決できる課題を広く求めることで、各領域の発展と深化を図ります。

また、保健医療科学連携科目群にある特講科目と同名の演習科目では、連携科目群で修得した知識に基づき、主に関連論文の読解による専門性の高い教育が行われます。

エ 特別研究は、学位論文を作成するための科目です。

特別研究では、これまでに修得した、保健医療科学基礎科目、保健医療科学連携科目及び保健医療科学専門科目における知識、技術、考え方を活用し、保健医療科学における新たな知見を得ることを目的とします。

保健医療科学専門科目群における学修を推し進めた成果が、特別研究へと繋がるカリキュラムになっています。

オ 授業は、主に夜間帯（18：30～21：40）及び週末等に授業を実施し、一部の科目を除き遠隔授業としております。これにより、在職のまま大学院に就学することができます。なお、一部の授業は昼間帯に実施する場合があります。

カ 保健医療科学専門科目群の「医学物理臨床実習」について

「医学物理臨床実習」は、医学物理士としての専門的な実習を行うことで、臨床・研究能力を養い、高度医療専門職を育成することを目的とした科目です。

本科目を履修する場合は、事前に必ず本科目の科目責任者に相談してください。

(3) 履修基準

科目区分		科目名	必修	選択	自由	講義	演習
保健医療科学基礎科目		保健医療科学特論	2				○
		保健医療科学方法論		1		○	
		医療政策論		1		○	
		専門英語	1				○
		医療と教育論		2		○	
保健医療科学連携科目		生活支援学特講		2		○	
		生活支援学特講演習		1			○
		リハビリテーション学特講		2		○	
		機能回復神経科学特講		2		○	
		病態解析診断学特講		2		○	
保健医療科学応用科目	看護学領域	看護学特講		2		○	
		看護学特講演習Ⅰ		1			○
		看護学特講演習Ⅱ		1			○
	理学療法学領域	理学療法学特講		2		○	
		理学療法学特講演習		1			○
		リハビリテーション教育学特講		2			○
	作業療法学領域	作業療法学特講		2		○	
		作業療法学特講演習		1			○
		リハビリテーション教育学特講		2			○
	放射線技術科学領域	実践技術科学特講		2		○	
		医学物理学特講		2		○	
		実践技術科学特講演習		2			○
		医学物理学特講演習		2			○
	医科学領域	医学物理臨床実習※			8		○
		病態解析診断学特講演習		1			○
機能回復神経学特講演習			1			○	
	リハビリテーション学特講演習		1			○	
特別研究	特別研究	6				○	

※自由科目「医学物理臨床実習(8単位)」については、単位は認定されるが修了要件単位には算入されない。

(4) 修了要件

- ・保健医療科学基礎科目群から必修科目3単位を含む4単位以上を履修する。
- ・保健医療科学連携科目群および保健医療科学応用科目群から6単位以上を履修する。その際、保健医療科学連携科目群から2単位以上、所属の領域の特講および特講演習から3単位以上を含める。
- ・特別研究6単位を履修する。
- ・特に優れた研究成果を挙げた者については、2年以上在学すれば足りるものとする。

- (5) 各領域における授業科目及び履修例
46 ページから 48 ページまでを参照

6 講義等の内容

49 ページから 57 ページまでを参照

7 指導教員と研究概要

58 ページから 66 ページまでを参照

【博士後期課程】

各領域における授業科目及び履修例

長期履修の場合は履修年次を1年延長する。
看護学領域

		理学療法学領域					
科目区分	単位数	履修年次	履修モデル1	履修モデル2	履修モデル3	履修モデル4	
保健医療科学 基礎科目	2	1	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論	
	1	1・2	医療政策論 専門英語 生活支援学特講	保健医療科学方法論 専門英語	医療政策論 専門英語	保健医療科学方法論 専門英語	
	1	1・2					
	1	1・2					
	1	1・2					
	保健医療科学 連携科目	2	1・2	生活支援学特講	生活支援学特講	リハビリテーション学特講	機能回復神経科学特講
		2	1・2				
		2	1・2				
		2	1・2				
		保健医療科学 応用科目	2	1・2	看護学特講 看護学特講演習 I 看護学特講演習 II	看護学特講 看護学特講演習 I 生活支援学特講演習	理学療法学特講 理学療法学特講演習
1			1・2				
1			1・2				
1			1・2				
2			1・2				
1			1・2				
1	1・2						
1	1・2						
1	1・2						
1	1・2						
6	1～3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究	
必修				9単位			
選択				7単位(以上)			
計				10単位以上			

履修モデル1：主として看護学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を旨とする者）

履修モデル2：主として看護学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨とする者）

履修モデル3：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者

先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を旨とする者）

履修モデル4：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者

臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨とする者）

履修モデル1・3では、TAを経験することが望ましい。履修モデル2・4では、TAとRAを経験することが望ましい。

長期履修の場合は履修年次を1年延長する。

		作業療法学領域				
科目区分	単位数	履修年次	履修モデル5	履修モデル6	履修モデル7	履修モデル8
保健医療科学 基礎科目	2	1	保健医療科学特論 保健医療科学方法論	保健医療科学特論 医療政策論 専門英語	保健医療科学特論 保健医療科学方法論 専門英語	保健医療科学特論 医療政策論 専門英語
	1	2	生活支援学特講			生活支援学特講
	1	2				
	1	2				
保健医療科学 連携科目	2	1	生活支援学特講	リハビリテーション学特講	機能回復神経科学特講	
	2	2				
	2	2				
	1	2				
保健医療科学 応用科目	2	1	生活支援学特講演習 理学療法学特講演習	作業療法学特講 作業療法学特講演習	作業療法学特講 作業療法学特講演習	生活支援学特講演習 作業療法学特講 作業療法学特講演習
	1	2				
	1	2				
	2	1				
	1	2				
	1	2				
	1	2				
	1	2				
	1	2				
	1	2				
必選	6	1～3	特別研究	特別研究	特別研究	特別研究
計			特別研究	特別研究	特別研究	特別研究
			9単位	9単位	7単位(以上)	16単位以上

履修モデル5：主として理学療法学に関する研究課題で学位申請する者
 臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨とする者）
 履修モデル6：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者
 先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を旨とする者）
 履修モデル7：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者
 臨床研究者と教育者の養成（大学等において臨床研究者・教育者を旨とする者）
 履修モデル8：主として作業療法学に関する研究課題で学位申請する者
 先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関において臨床指導者・教育者を旨とする者）
 履修モデル5・7では、TAとRAを経験することが望ましい。履修モデル6・8では、TAを経験することが望ましい。

長期履修の場合は履修年次を1年延長する。

		放射線技術科学領域		医学領域	
科目区分	単位数	履修年次	履修モデル9	履修モデル10	履修モデル11
保健医療科学 基礎科目	2	1・2	保健医療科学特論	保健医療科学特論	保健医療科学特論
	1	1・2	医療政策論	保健医療科学特論	保健医療科学特論
	1	1・2	専門英語	専門英語	専門英語
	2	1～3			
保健医療科学 連携科目	2	1・2			
	1	1・2	機能回復神経科学特論	病態解析診断学特論	リハビリテーション学特論
保健医療科学応用科目	2	1・2			
	1	1・2			
	1	1・2			
	2	1・2			
	1	1・2			
	2	1・2			
	2	1・2			
	1	1・2	実践技術科学特論		
	2	1・2	実践技術科学特論		
	2	1・2	実践技術科学特論		
	8	1・2	医学物理学特論 医学物理学特論演習 医学物理臨床実習※		
	1	1・2			
1	1・2				
6	1～3	特別研究	特別研究	特別研究	
必修			9単位		9単位
選択			7単位(※を除く)		7単位(以上)
計			16単位		16単位以上

履修モデル9：主として実践技術科学に関する研究課題で学位申請する者
先駆的臨床指導者と教育者の養成（保健医療機関または大学等において臨床指導者・教育者を旨とする者）

履修モデル10：主として医学物理学に関する研究課題で学位申請する者
高度専門職である医学物理士の養成、および医学物理学の発展に寄与する教育者・研究者の養成
（保健医療機関または大学等において医学物理士・研究者・教育者を旨とする者）

履修モデル9、10では、博士前期課程から系統的な学修となるよう科目が配置されています。博士前期課程の履修科目を踏まえて、指導教員と十分に相談してください。

履修モデル9では、TAとRAを経験することが望ましい。履修モデル10では、TAを経験することが望ましい。
※単位は認定されるが修了要件には参入されない。

履修モデル11：主として医学科学に関する研究課題で学位申請する者
基礎研究者と教育者の養成（大学等において基礎研究者・教育者を旨とする者）

履修モデル12：主として医学科学に関する研究課題で学位申請する者
基礎研究者と臨床研究者の養成（保健医療機関・研究所・企業等において研究業務を旨とする者）

【博士後期課程】

講義等の内容

【 保健医療医科学基礎科目 】

(★印は科目責任者)

授業科目名	講義等の内容
保健医療科学特論	<p>多職種協働による患者中心医療の実践において、患者ニーズに十分に応えるためには、専門知識のみならず、関連する知識の理解・習得が必要である。これは自己の技術や理論の発展、また科学的根拠を求めるためにも有益である。関連分野の知識を深めることで、臨床で遭遇する諸問題への理解が進み、自らの専門性をより深化させることができる。</p> <p>この科目では、看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学、ならびにそれらに関連の深い領域（学際領域）における議論を通して、保健・医療・福祉に対する包括的理解を促す。また、学際領域の科目履修を円滑に進めることに役立てる。保健医療における技術科学の変遷、利用者・患者・家族へのアプローチ（個別支援、地域ケアシステムなど）、より良い保健医療を提供するための提案（情報伝達、情報共有の方法など）、調整能力、リーダーシップの取り方（施設内システムの構築など）、学際的研究推進の意義などについて教授する。</p> <p>(★富田和秀教授、阿部慎司教授（学長）、桜井直美教授、河野了教授、濱田理人教授、齋藤さわ子教授、笹原朋代教授、堀田和司教授、上岡裕美子教授、富田美加教授、白石英樹教授、滝澤恵美教授、六崎祐高教授、藤岡寛教授、浅川育世教授、五月女康作教授、藤崎達也教授、才津芳昭教授、石森佳幸教授、中山智博准教授、松田智行准教授、藤田好彦准教授、布施拓准教授、田澤あけみ非常勤講師、未定)</p>
保健医療科学方法論	<p>保健医療科学・技術の研究・開発、及びその教育・実践等を進めるうえで必要不可欠な基礎的方法論を教授するとともに、その社会的役割や影響等を考察する。まず、実験研究、理論研究などの手法を様々な研究事例を通して学際的に学修し、柔軟な発想を養成する。また、科学・技術としての保健医療科学が社会に対していかなる影響を与えるか、あるいは与えられるか、どのような問題をはらんでいるか、を具体的事例に関する論争をまとめたテキストを読みながら考察する。</p> <p>(★才津芳昭教授、兵藤一行非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
医療政策論	<p>西洋医学の歩み、社会保障制度の形成、公衆衛生体制の成立、そしてわが国における近年の健康日本 21 の推進、介護保険制度、特定検診・保健指導の発足などについて学ぶことによって、高度専門職医療人として各専門職の立場から医療制度の新しい展望についての理解を深め、21 世紀の「医療政策」がどのような課題に直面し、どのような方向に向かうべきか、議論・討論を通して考える。また、システムダイナミックスの考え方をもとにシミュレーションを施行し、具体的な医療政策を提案することで、各専門職業人の観点からこれらの課題について意見交換し、表現力・交渉力を育成する。</p> <p>(★河野了教授)</p>
専門英語	<p>研究成果を海外の専門会議等で報告するための実践的技術について、繰り返し練習による演習形式で教授する。英語で研究成果を報告・議論するときの上手な話し方、聞き方について学び、国際的競争力を高めるための基礎技術を修得させる。英文ポスターの特徴と構成、表現法とスキルについて専門英語を学ぶ観点から重点的に教授する。看護学領域、理学療法学・作業療法学領域、放射線技術学領域、並びにこれらの関連領域における代表的な研究課題例を用い、英語を聴く・伝えるという観点から、上手な口頭発表の仕方、英語による Q&A の対応の仕方などについて、国際会議への参加を模擬する形式で教授する。英語による表現力や交渉力の涵養に役立つ内容である。</p> <p>(★ D. ニューバリー教授、内田敦子教授)</p>
医療と教育論	<p>医療従事者の養成に必要な教育学に関する諸理論や概念を学修するとともに、現代の若者の心理的特徴を理解し、教育心理学に基づいた適切な指導の方法について学ぶ。さらに、医療専門職の教育に特化した専門教育の方法を実践する能力を身に着ける。</p> <p>(★佐藤純教授、河野豊教授、立石新治非常勤講師、堀内明由美非常勤講師)</p>

【 保健医療医科学連携科目 】

授業科目名	講義等の内容
生活支援学特講	<p>人間の生活を形成し健康問題に影響を及ぼす環境との関わりを理解し、生活支援における看護学と関連する学問および技術について教授する。高齢者や障害者（児）への生活支援は、生活障害の特徴を理解するとともに、主体性をもって自己の生活課題を克服する過程を支援するものである。生活する人々の意思に基づく制度的な生活支援体制、生活支援の価値・知識・方法の論理性、生活支援の学際的な広がり理論・実践の両面から統合していけるように教授する。</p> <p>（★藤岡寛教授、富田和秀教授、齋藤さわ子教授、堀田和司教授）</p>
生活支援学特講演習	<p>健康問題に影響を及ぼす環境との関わり、生活支援における看護学および関連する学問の技術、生活障害の特徴、生活課題を克服する過程への支援など、生活支援学特講で獲得した知識・理論を活用し、生活支援の理論と実践とが統合していけるように教授する。</p> <p>（★未定、富田和秀教授、齋藤さわ子教授、藤岡寛教授、堀田和司教授）</p>
リハビリテーション学特講	<p>リハビリテーションの視点から、機能障害の評価・治療、障害予防、介護予防、在宅リハビリテーション、障害者の社会参加の支援および介護者の生活の質（QOL）までの広範囲な内容を教授する。</p> <p>（★松元秀次教授、岩井浩一非常勤講師、吉良淳子非常勤講師、上岡裕美子教授、山口忍教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授）</p>
機能回復神経科学特講	<p>本科目では神経系に由来する運動障害や感覚障害をニューロサイエンスの視点からとらえ、神経科学を基盤として神経系障害機能回復の科学的根拠と可能性を追及する。機能回復評価学・治療学として機能障害の中樞神経系の障害に対する基本的理解、病態、評価、治療、リハビリテーションについての基礎的研究基盤とその方法論について教授する他、機能回復の背景となる生命科学の研究成果の背景について、理解を深める。また、機能回復の対象となる中樞神経系の障害をきたす各種疾患の病態の理解を深める他、治療体系の中におけるリハビリテーションの位置づけと、最近の研究についても教授する。</p> <p>（★河野豊教授、角友起准教授）</p>

授業科目名	講義等の内容
病態解析診断学特講	<p>放射線画像などによる画像診断法はあらゆる医療分野における病態把握と診断の根拠を提供し、その基本的知識の理解は、リハビリテーション学や機能回復神経科学などへの応用に留まらず、保健医療科学を理解するための土台を提供する。画像の解析には、撮影する放射線技術科学的側面と、被写体である生体の正常と病態および構造と機能に関する生命医科学的側面の総合的理解が重要である。本特講では、サブテーマを生活習慣病（悪性腫瘍を含む）とその臓器合併症とし、特に腎・心・脳疾患の微小循環や微小環境における代謝・機能・形態などの病態を、病理学、生化学、分子生物学や病態解析制御学の見地から解説する。関連する画像（イメージング）における放射線技術科学と、生命医科学との学際領域における先端的新知見を展望する。</p> <p>（★山口雅之教授、五月女康作教授、瓜倉厚志教授）</p>

【 保健医療医科学専門科目 】

授業科目名	講義等の内容
看護学特講	<p>人々の健康維持・増進とQOLの向上にかかわる看護の各領域から、最新の看護の課題および課題解決の方法論である理論および方法・技術について教授する。広く看護をとらえることから看護実践への応用、研究との関連について教授する。</p> <p>(★中村博文教授、藤岡寛教授、富田美加教授)</p>
看護学特講演習 I	<p>広い視野を持って対象の健康の維持・増進およびQOLを向上させるために、事象の関係性や関連要因の分析、環境との関係性など看護学特講で獲得した知識・理論を活用し、専門分野における看護実践を発展させるケア開発及びシステム構築について教授する。特講演習 I では、コア概念として、人と看護のあり方を環境や社会的側面、ライフサイクル、個別および集団へのアプローチに関して、最新のエビデンスから探求し、多角的に分析および統合発展させる考え方、方法を教授する。これらを通じて、学生の興味と関心および専門性を踏まえて、各看護学分野から新たな視点および深さを投げかけ、学生の課題をさらに深めることになる。</p> <p>(★山波真理教授、中村博文教授、藤岡寛教授、富田美加教授、笹原朋代教授、他)</p>
看護学特講演習 II	<p>特講演習 II は、学生各自の持つ課題の専門的理解を深め、研究の構想、枠組みの深化と具体化ができるように教授する。そのためには、院生の課題にいつそう特化した2名の教員と、課題の背景、コア概念を統合させる。かつ、フィールドワーク(参加観察)を取り入れ、理論生成と現象理解をフィードバックしながら、帰納的・演繹的双方の思考力を養い、研究課題と方法論の修練を行う。</p> <p>(★山波真理教授、中村博文教授、藤岡寛教授、山海千保子准教授、笹原朋代教授、他)</p>
理学療法学特講	<p>基礎医学、医科学、社会学、社会福祉学などの学問分野と理学療法研究との関連性について教授する。また教員の呈示した内容やテーマに対し学生間で活発な意見交換を行い授業を進行する。</p> <p>理学療法に近接する学問分野との学際的研究の在り方や、それら各学問分野における理学療法研究の位置づけ、独自性について理解する。</p> <p>(★富田和秀教授、浅川育世教授、滝澤恵美教授、橘香織教授、松田智行准教授、篠崎真枝准教授、青山敏之准教授)</p>
理学療法学特講演習	<p>本授業は提示されたテーマについて学生間で考え論議することが主体である。現在行っている研究を学際的研究としての関連性から捉え研究の視野を広げる。理学療法に近接する学問分野との学際的研究の在り方や、理学療法研究の独自性、位置づけについて理解する。</p> <p>(★富田和秀教授、上岡裕美子教授、浅川育世教授、滝澤恵美教授、橘香織教授、松田智行准教授、青山敏之准教授、篠崎真枝准教授)</p>

授業科目名	講義等の内容
リハビリテーション 教育学特講	<p>理学療法士・作業療法士が医療専門職として修得しているべき知識・技能を考え、そこに至る過程を考えることにより、学内教育および臨床実習教育が備えるべき教育内容に関する理解を深める。同時に、診療参加型臨床実習の理念と方法を学び、学内教育と新任教育を如何に連続させるかについて学修する。</p> <p>この科目では、理学療法士・作業療法士が修得しているべき知識・技能の提案と必要な新任教育の方法と内容、理学療法士・作業療法士教育カリキュラムの変遷、現状と課題に加え、学内教育で教授すべき内容を教授する。</p> <p>また、臨床実習前学内教育における到達目標および臨床実習における到達目標を提案と診療参加型臨床実習の理念と方法について学修すると共にハラスメントの概念を理解し、防止方法を学修し、学校教育および新任教育に携わる理学療法士・作業療法士の育成に繋げる科目である。</p> <p>(★堀田和司教授、浅川育世教授、白石英樹教授、松田智行准教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授、篠崎真枝准教授、唯根弘准教授)</p>
作業療法学特講	<p>作業療法において個人の生活に関わる活動（つまり「作業」）が効果的に遂行できる支援には、多角的な側面を考慮することが不可欠である。本授業では、学生の興味のある作業そのものあるいはその作業に関わる側面について、現象の捉え方、関連する側面の相互作用、身体的・精神的健康に与える影響を含め、多角的に捉え分析する思考や各側面を統合・発展させる考え方を教授する。</p> <p>(★白石英樹教授、齋藤さわ子教授、堀田和司教授、藤田好彦准教授、浅羽エリック非常勤講師)</p>
作業療法学特講演習	<p>作業療法学特講演習では、同特講を修了し、個人の生活に関わる活動（つまり「作業」）の可能化あるいは治療的応用に関して深めるため、学生が希望するテーマを下記の中から2つ選択し、学生の興味の幅と専門性をさらに深めるためテーマに精通した教員が授業を担い教授する。*シラバスの授業計画には、例示の一部を示す（学生が「作業の意味と健康」と「作業の形態・機能と健康」を選択した場合）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の意味と健康（浅羽） ・ 作業の形態・機能と健康（齋藤） ・ 活動と高齢者の健康（堀田） ・ 活動と心理的・生理的・身体的反応（藤田） ・ 活動と身体機能（白石） ・ 活動の可能化とリハビリテーション工学の応用（吉田） <p>(★齋藤さわ子教授、白石英樹教授、堀田和司教授、藤田好彦准教授、村木敏明非常勤講師、吉田直樹非常勤講師、浅羽エリック非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
実践技術科学特講	<p>放射線技術科学領域に導入される新しい科学技術は、相互に関わりあうことで医療画像、核医学、放射線治療の各システムの性能を飛躍的に向上させることができる。この講義では、履修学生の研究テーマに関連したトピックを取り上げ、画像診断、解析、医療情報、計測・安全管理、さらには治療法への応用など、最新知見を非常勤講師とともに教授し、放射線技術科学の新たな可能性を展望する。</p> <p>(★石森佳幸教授、藤崎達也教授、瓜倉厚志教授、五月女康作教授、鹿野直人教授、須田匡也准教授、布施拓准教授、曾我部和美講師、宮川真助教、安江憲治助教、野坂広樹助教、高橋将斗助教、未定、非常勤講師(未定))</p>
実践技術科学特講演習	<p>放射線技術科学領域に導入される新しい科学技術は、相互に関わりあうことで医療画像、核医学、放射線治療の各システムの性能を飛躍的に向上させることができる。本演習では、放射線技術科学特講で得た知識を基に放射線技術科学の発展・今後の展開について、履修者の研究課題にあわせて、内外の論文読解、課題論文学習などを用いた演習により教授する。学生が検索した論文の紹介やその精読も適時行う。履修者の研究課題にあわせて配分は異なることがあります。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同、研究課題にあわせた非常勤講師が配置される)</p> <p>(★石森佳幸教授、特別研究指導教員、研究課題にあわせた非常勤講師)</p>
医学物理学特講	<p>放射線防護学、診療画像技術学、核医学検査技術学ならびに放射線治療技術学で用いられている医学物理学を実践的な観点から広く学修する。医学物理士と必要なすべての分野を学修しますが、履修者の研究課題にあわせて配分は異なることがあります。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(★藤崎達也教授、石森佳幸教授、瓜倉厚志教授、五月女康作教授、鹿野直人准教授、須田匡也准教授、布施拓准教授、宮川真助教、安江憲治助教、野坂広樹助教、高橋将斗助教、未定、松本孔貴非常勤講師、角谷倫之非常勤講師、守屋駿佑非常勤講師)</p>
医学物理学特講演習	<p>医学物理学特講の講義内容を基礎として、履修者の研究課題にあわせて医学物理学を実践的な観点から理解を深めるとともに医学物理士に必要な国内外で活躍できる力を身につける。履修者の研究課題にあわせて、放射線防護学、放射線診断物理学、核医学物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、医療・画像情報工学などの演習を通して、医学物理士として具有すべき知識・技術を学修する。</p> <p>(オムニバス方式・一部共同、研究課題にあわせた非常勤講師が配置される)</p> <p>(★藤崎達也教授、特別研究指導教員、研究課題にあわせた非常勤講師)</p>

授業科目名	講義等の内容
医学物理臨床実習	<p>放射線治療分野の on-the-job training (OJT) を通して、医学物理士として必要な臨床実習を行う。臨床現場における解析手法や技術を習得し、それらを臨床業務や研究業務に活用・応用できるようにするとともに、学生自身で臨床における課題を探索・調査し、解決する手法を習得する。</p> <p>実習は次の内容を、関連・連携施設で実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 放射線治療基礎 (2) 線量計算・線量測定 (3) 密封小線源治療 (4) 単純な外部照射治療計画 (5) IMRT を含む複雑な外部照射治療計画 (6) 粒子線治療 (7) 照射録チェック (8) 治療装置、治療計画装置受け入れ検査、コミッシュニング (9) 臨床に関わる研究プロジェクトまたは新しい治療法の立ち上げプロジェクト <p>上記について、各々の修得状況に応じて実習（2年間）を実施する。</p> <p>（★藤崎達也教授、布施拓准教授、宮川真助教）</p>
病態解析診断学特講演習	<p>放射線画像などによる画像診断法はあらゆる医療分野における病態把握と診断の根拠を提供し、その基本的知識の理解は、リハビリテーション学や機能回復神経科学などへの応用に留まらず、保健医療科学を理解するための土台を提供する。画像の解析には、撮影する放射線技術科学的側面と、被写体である生体の正常と病態および構造と機能に関する生命医科学的側面・医学的側面の総合的理解が重要である。本特講では、サブテーマを生活習慣病（悪性腫瘍を含む）と臓器合併症とし、国内外の学術論文講読を科学的、批判的に行い、生活習慣病を構成する生体側の諸要因と放射線医学との関連を分析する。さらに、微小循環障害と臓器障害との関係や、病態・画像等診断・治療・予後との相互関係について、論文報告例や付属病院症例を対象とした考察を行う。関連する放射線技術科学と生命医科学との学際領域における先端的新知見へと展望を広げる。</p> <p>（★山口雅之教授、五月女康作教授、瓜倉厚志教授）</p>
機能回復神経科学特講演習	<p>本科目では神経系に由来する運動障害や感覚障害をニューロサイエンスの視点からとらえ、神経科学を基盤として神経系障害機能回復の科学的根拠と可能性を追及する。</p> <p>中枢神経系疾患に関する解剖生理、病態、評価、治療、リハビリテーションについての基礎的知識と今後の治療の展望について教授する。特に機能回復の背景となる生命科学や神経生理学などの研究成果については最新の論文を精読しながら理解を深めていく。</p> <p>（★河野豊教授、角友起准教授）</p>
リハビリテーション学特講演習	<p>リハビリテーションの視点から、機能障害の評価・治療、障害予防、介護予防、在宅リハビリテーション、障害者の社会参加の支援および介護者の生活の質（QOL）に関する実践的内容を教授する。</p> <p>（★松元秀次教授、岩井浩一非常勤講師、吉良淳子非常勤講師、上岡裕美子教授、藤田好彦准教授、若山修一准教授）</p>

【 特別研究 】

授 業 科 目 名	講義等の内容
特別研究	<p>本科目は、博士研究を主体的に遂行するための基盤的研究能力を養成することを目的とする科目である。指導教員および副指導教員が主宰する研究ゼミ等に参加し、研究課題の設定過程、研究方法の選択根拠、データの解釈方法、研究倫理の在り方などについて討議を重ねながら、研究者としての思考力と判断力を涵養する。</p> <p>本科目では、文献の批判的読解、研究デザインの検討、統計解析手法の理解、研究計画立案のプロセスの理解などを通して、博士研究に必要な基礎的能力を体系的に身につける。また、エビデンス（科学的根拠）に基づく実践や臨床現場で生じている現象の解明、新たな技術開発に資する研究課題、ならびにそれらの理論的基盤となる課題を対象として、以下の能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性の高い研究課題を設定できる能力 ・ 科学的方法に基づき、データの収集・解析・評価を適切に遂行できる能力 ・ 専門分野および関連する学際分野において、独立して、あるいは共同で研究を推進できる能力 ・ 筆頭著者として原著論文を投稿し、査読者と建設的な学術的議論ができる能力 ・ 研究成果について国内外の研究者と専門的に議論できる能力 <p>これらを通して、倫理性、論理性、表現力、批判的思考力を備えた臨床研究者を育成する。さらに、本科目で養われる問題解決能力は、臨床現場におけるスタッフ指導や業務の質的改善に関するリーダーシップへと発展することが期待される。科学的思考に基づく指導力は、大学・大学院における教育活動や後進の育成にも生かされるものである。</p>

【博士後期課程】

指導教員と研究概要

指導教員と研究概要（看護学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 笹原 朋代 sasaharatoatipu.ac.jp	がん患者や緩和ケアを必要とする人々が、最期までその人らしく尊厳を保って生活するための支援のあり方やケアサービスの提供体制、看護師の教育に関する研究を行う。	1. 笹原朋代, 落合亮太, 竹之内沙弥香. 看護師のエンド・オブ・ライフ・ケア実践を測定するための尺度(ELNEC-J P)の開発. Palliative Care Research, 2024; 19(3) 181-187 2. Tomoyo Sasahara, Kazuki Sato, Atsushi Hashimoto, et al. Web-Based Post-Bereavement Survey System in Specialized Palliative Care: A Feasibility Pilot Study. The Tohoku Journal of Experimental Medicine 261(3):249-256 3. Tomoyo Sasahara, Akiko Watakabe, Etsuko Aruga, et al. Assessment of Reasons for Referral and Activities of Hospital Palliative Care Teams Using a Standard Format: A Multicenter 1000 Case Description. Journal of Pain and Symptom Management 47(3), 579-587
教授 富田 美加 tomitamatipu.ac.jp	ヘルスケアにおける学術情報リテラシーに関する研究 看護学におけるオープンサイエンスに関する研究	1. Tomita M, et al. The Analysis of Medical Adverse Events Related to Electronic Health Records in Nursing Services. Studies in health technology and informatics. 2017;245:1340. 2. 富田美加. 茨城県立医療大学に関する資料の収集における大学アーカイブズ構築上の課題. 茨城県立医療大学紀要, 19, 2014; 45-53.
教授 中村 博文 nakamurahiratipu.ac.jp	統合失調症患者の地域生活におけるQOLに関する研究 精神看護学教育における効果的な学習方法に関する研究 精神障がい者の社会復帰・社会参加に関する研究	1. Hirofumi N, et al. Structural equation model of factors related to quality of life for community-dwelling schizophrenic patients in Japan. International Journal of Mental Health Systems. 2014, 8:32. doi:10.1186/1752-4458-8-32 2. 中村博文, 糸嶺一郎, 藤岡寛, 加納尚美. イリノイ州立大学大学院における高度実践看護学教育の実際—本学大学院看護学専攻の課題と展望—, 茨城県立医療大学紀要, 2019; 24: 111-118 3. 中村 博文, 渡辺 尚子. 地域で生活する統合失調症患者におけるresilienceの要因についての質的分析, 均衡生活学, 2023; 13(1): 1-8
教授 藤岡 寛 fujiokahatipu.ac.jp	多重課題を抱える家族への看護実践 障害児をもつ家族の共同育児（コペアレンティング）に向けた支援 家族に対する支援プログラムの開発と評価	1. 藤岡寛, 涌水理恵, 栗原雛子, 市川睦, 岩崎信明. 在宅で重症心身障害児を養育する家族と医療スタッフに向けた家族エンパワメント啓発パンフレット作成の試み. 茨城県立医療大学紀要 2022; 27: 81-92 2. 藤岡寛, 涌水理恵, 西垣佳織, 松澤明美, 岸野 美由紀. 学齢在宅重症心身障害児の主養育者とその配偶者それぞれのQOLとその関連要因. 日本重症心身障害学会誌 2019; 44(1): 169-176 3. 藤岡寛, 田中陽子, 涌水理恵. The Parenting and Family Adjustment Scale(PAFAS)およびThe Child Adjustment and Parent Efficacy Scale(CAPES)の日本語版作成の試み. 厚生指標 2016; 63(15): 20-28
教授 山波 真理 yamanamimatipu.ac.jp	産後のヘルスプロモーションに関する研究 母性看護学教育に関する研究 助産師の臨床実践に関する研究	1. Mari Yamanami, Naomi Kano, Development of a health behavior model for females with a history of gestational diabetes to promote healthy dietary habits and glucose tolerance testing. International Journal of Nursing and Midwifery, 2023;15(2):16-30 2. 山波真理, 家吉望み, 加納尚美. 妊娠糖尿病既往女性の健康行動の構成要素—食生活と耐糖能検査の受検に焦点をあてて—, 母性衛生, 2023; 64(1):51-59 3. 小野加奈子, 山波真理, 加納尚美. 母性看護学実習における看護学生の学び—正統的周辺参加の視点から—, 日本看護科学学会誌, 2022; 42: 222-230
准教授 笠井 久美 kasaikatipu.ac.jp	疾患や障害のある子ども～成人に対する性教育についての研究 疾患や障害のある親のの育児支援および疾患や障害のある子どもの親の育児支援に関する研究	1. Kasai K., Unno T., Fujioka H. Sex Education Needs of Japanese People with Spina Bifida: Relation to Participants' Demographics. Sexuality and Disability, 2022; 40(4): 807-818. 2. 笠井久美, 道木恭子. 二分脊椎男性の親へのインタビュー調査—セクシュアリティに関する親の思いとかかわり—. 思春期学, 2019;37(3): 285-291. 3. 笠井久美. 学童期の脳性麻痺児を育てる親の「しつけ」に関する質的研究—「しつけ」方針と内容—. 茨城県立医療大学紀要, 2017;22: 45-54.
准教授 渡辺 忍 watanabeshinoatipu.ac.jp	医療・介護サービス間の連携に関する研究 要介護高齢者の医療的ケアに関する研究 介護サービスで働く看護職に関する研究	1. 渡辺忍, 田中理恵, 鶴見三代子. 自己管理が困難なインスリン療法を行う要介護高齢者が在宅生活を継続するために必要な支援と今後の課題: 訪問看護師の視点から. 日本在宅ケア学会誌, 2024;27(2), 85-96. 2. 渡辺忍. 訪問入浴介護に従事する看護職の不安と教育ニーズ. 日本在宅ケア学会誌, 2024;28(1), 82-91. 3. Shinobu Watanabe, Tomoko Ito, Takehiro Sugiyama, Makiko Tomita, Shu Kobayashi, Nanako Tamiya: Current conditions of use of long-term care insurance services for home-based long-term care recipients who need insulin therapy. Geriatrics and Gerontology International. 2023;23(3):253-255.

指導教員と研究概要（理学療法学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 浅川 育世 asakawayatipu.a c.jp	活動や参加の新たな指標開発に関する研究	1. YASUTSUGU ASAKAWA, SHIGERU USUDA, MASAFUMI MIZUKAMI, SHIGEYUKI IMURA. Moderator and Mediator effects of personal factors in patients with stroke. Journal of Physical Therapy Science 2009 21(1);55-63 2. 浅川育世, 佐野岳. 総合事業等で参加を評価するために必要な項目の検討. 理学療法学 2018; 45(4): 263-269 3. 浅川育世, 小貫葉子, 前沢孝之, 佐野岳, 斎藤由香, 内田智子. 中高年者を対象とした国際生活機能分類の参加に該当する項目の重要度についての調査. 理学療法学 2017;44(1):56-65
	理学療法介入における活動や参加への寄与に関する量的・質的研究	
	脳卒中等疾患の障害の構造分析に関する研究	
教授 上岡 裕美子 ykamiokaatipu.a c.jp	訪問リハビリテーションの効果検証に関する研究	1. Kamioka Y, Miura Y, Matsuda T, Iijima Y, Suzyki A, Makazato K, Saito H, Arita M. Changes in social participation and life-space mobility in newly enrolled home-based rehabilitation esers over 6 months. Journal of Physical Therapy Science. 2020, 32:375-384. 2. Kamioka Y, Miura Y, Matsuda T, Miyata S, Hosota T, Isaji T. One-year changes in activities of daily living and social life in elderly patients undergoing home-based rehabilitation within 1 year of stroke onset. Journal of Physical Therapy Science. 2023, 35:689-695. 3. 上岡裕美子, 篠崎真枝, 橘香織, 山本哲, 宮田一弘, 青山敏之, 富田美加. 理学療法学生における実習前客観的臨床能力試験(OSCE)と臨床参加型実習到達度との関連性. 医学教育. 2021, 52:97-101
	訪問リハビリテーションにおける目標設定と目標達成度評価の有用性に関する研究	
	問題基盤型学習 (Problem-based learning: PBL) による教育効果の検証	
	理学療法教育における客観的臨床能力試験(OSCE)実施方法の確立	
教授 滝澤 恵美 takizawaatipu.a c.jp	身体活動あるいは生活環境と子どもの心身発達に関する研究	1. 滝澤恵美, 小林育斗, 川村紗世, 岩井浩一. 児童におけるしゃがみ動作の不可および関節間協調性に関連する要因. 理学療法学. 2019, 46:225-232. 2. 滝澤恵美, 岩井浩一, 伊東元. 地域在住高齢者における歩行の加齢変化にみる自己調整-8年にわたる縦断研究から-. 理学療法科学. 2020, 35:557-563. 3. Takizawa, M., Suzuki, D., Ito, H., Fujimiya, M., Uchiyama, E. Why adductor magnus muscle is large: the function based on muscle morphology in cadavers. Scandinavian journal of medicine & science in sports. 2014, 24: 197-203
	加齢に伴う歩行運動パターンの変化と自己調整に関する研究	
	解剖学的視点に基づく筋骨格系の機能特性に関する研究	
教授 富田 和秀 tomitakatipu.ac .jp	随意呼吸のフィードバック制御を用いた新たな呼吸リハビリテーションの開発	1. Ishiia N, Tomita K, Kawamura K, Setaka Y, Yoshida R, Takeshima R. Effects of breathing control using visual feedback of thoracoabdominal movement on aerobic exercise. Respiratory Physiology & Neurobiology. 2022, 301(in print). 2. Yoshida R, Tomita K, Kawamura K, Setaka Y, Ishii N, Monma M, Mutsuzaki H, Mizukami M, Ohse H, Imura S. Investigation of inspiratory intercostal muscle activity in patients with spinal cord injury: a pilot study using electromyography, ultrasonography, and respiratory inductance plethysmography. Journal of physical therapy science. 2021, 33(2), 153-157. 3. Kobayashi M, Kawamura K, Setaka Y, Fujisawa R, Woo H, Tomita K. Development and evaluation of an automated breathing-synchronized chest wall vibration stimulation system. J Phys Ther Sci. 2024; 36(10): 620-627.
	脊髄損傷者の呼吸運動回復機序と呼吸リハビリテーション	
	胸壁振動反射を併用した呼吸リハビリテーションの開発	
教授 橘 香織 tachibanaatipu. ac.jp	パラスポーツ、特に車いすスポーツのクラス分けに関する研究	1. Tachibana K, Mutsuzaki H, Shimizu Y, Doi T, Hotta K, Wadano Y. Influence of Functional Classification on Skill Tests in Elite Female Wheelchair Basketball Athletes. Medicina (Kaunas) 2019; 55(11): pii: E740 2. 橘香織, 水上昌文, 和田野安良. 車椅子バスケットボール競技における慢性関節痛の発生状況. 茨城県立医療大学紀要. 2010;15:26-33 3. 橘香織, 六崎裕高, 清水如代, 四津有人, 土肥崇史, 和田野安良. Time Motion分析を用いた車いすバスケットボール女子の試合中の運動率の検討. 茨城県立医療大学紀要. 2020;25:13-20.
	車いすスポーツ参加者のスポーツ傷害予防及びリハビリテーションに関する研究	
	パラスポーツ、特に車いすスポーツの競技力向上に関する研究	
准教授 青山 敏之 aoyamatoatipu.a c.jp	非侵襲的脳刺激法を用いたヒト運動制御や運動学習に関する基礎的研究	1. Toshiyuki Aoyama, Kazumichi Ae, Hiroto Souma, Kazuhiro Miyata, Kazuhiro Kajita, Takashi Kawamura, Koichi Iwai. Difference in Personality Traits and Symptom Intensity According to the Trigger-Based Classification of Throwing Yips in Baseball Players. Frontiers in sports and active living 3. 652792, 2021 2. Toshiyuki Aoyama, Atsushi Kanazawa, Yutaka Kohno, Shinya Watanabe, Kazuhide Tomita, Fuminari Kaneko. Influence of Visual Stimulation-Induced Passive Reproduction of Motor Images in the Brain on Motor Paralysis After Stroke. Frontiers in human neuroscience 15. 674139, 2023 3. Toshiyuki Aoyama, Fuminari Kaneko, Yukari Ohashi, Yutaka Kohno. Dissociation between cortical and spinal excitability of the antagonist muscle during combined motor imagery and action observation. Scientific Reports 9(1) 2019
	動作筋電図やDecomposition法を用いた基礎研究と各種疾患の病態解明を目的とした臨床的研究	
	VR技術を応用した運動錯覚による介入研究	

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
准教授 篠崎 真枝 shinozakiatipu. ac.jp	リハビリテーション専門職の臨床教育に関する研究	1. Masae Shinozaki, Takashi Fukaya, Yassutsugu Asakawa, Yukari Ohashi. A Questionnaire Survey of Difficulties in Clinical Practice Perceived by Physical Therapy Students. J.Phys. Ther. Sci. 2020, 32, 856-863 2. 篠崎真枝, 浅川育世, 大橋ゆかり. 継続したPBLテュートリアル教育による効果の検討. 理学療法科学. 2016, 31(6), 819-827. 3. 篠崎真枝, 浅川育世, 大橋ゆかり. 臨床実習指導者の感じる指導上の困難ならびに効果的な指導方法の検討. 理学療法科学. 2018, 33(4), 659-667.
	理学療法教育における教育技法・方略の検証	
准教授 松田 智行 matsudatoatipu. ac.jp	介護保険制度における理学療法サービス	1. Tomoyuki Matsuda, Masao Iwagami, Toshiki Suzuki, Xueying Jin, Taeko Watanabe, Nanako Tamiya. Correlation between the Barthel Index and care need levels in the Japanese long-term care insurance system. Geriatric Gerontology international. 2019, 19, 1186-1187. 2. 松田 智行, 田宮 菜奈子, 柏木 聖代, 森山 葉子. 介護保険制度導入前後における在宅サービス利用の変化. 日本公衆衛生雑誌. 2013, 60(9), 586-595
	医療制度（特に難病法）における理学療法サービス	
	地域包括ケアシステムにおけるサービス提供体制の検証	
准教授 山本 哲 yamamosatipu. ac.jp	神経生理学的手法を用いた中枢神経障害患者における基礎・臨床的研究	1. Yamamoto S, Ishii D, Ichiba N, Yozu A, Kohno Y. Cathodal tDCS on the motor area decreases the tactile threshold of the distal pulp of the hallux. Neurosci Lett. 2020;719:133887. 2. Yamamoto S, Ishii D, Ishibashi K, Kohno Y. Transcranial Direct Current Stimulation of the Dorsolateral Prefrontal Cortex Modulates Cognitive Function Related to Motor Execution During Sequential Task: A Randomized Control Study. Frontiers in Human Neuroscience. 2022;16. 3. Yamamoto S, Aoyama T, Ishii D, Ishibashi K, Kohno Y. Case Report: Repetitive peripheral magnetic stimulation and task-oriented training improve motor function in chronic severe post-stroke paralysis. Front Stroke. 2025 Feb 21;4:1547280.
	ウェアラブル歩行測定システムのリハビリテーション臨床への組み込み	
	生活期における身体活動量増大を目指した統合的なウェアラブル測定システムの開発	
助教 柴田 聡 shibatasaatipu. ac.jp	スポーツ外傷・障害のメカニズムとリスクファクターの検証	1. Satoshi Shibata, Masahiro Takemura, Shumpei Miyakawa. Kinematics, Kinetics and Muscle Activity Analysis during Single-leg Drop-jump Landing Followed by an Unanticipated Task: Focusing on Differences in Neurocognitive Function. International Journal of Sports Physical Therapy 18(5) 1085-1093 2023 2. Satoshi Shibata, Shuki Kodai, Masahiro Takemura. The effect of a basketball game on balance ability: A study using a dual task paradigm. Journal of Bodywork and Movement Therapies 36 343-348 2023 3. Shibata S, Takemura M, Miyakawa S. The influence of differences in neurocognitive function on lower limb kinematics, kinetics, and muscle activity during an unanticipated cutting motion. Physical therapy research 21(2) 44-52 2018
	スポーツ外傷・障害後のリハビリテーションと競技復帰基準の検討	
	競技力向上に向けたトレーニングやコンディショニング方法の検討	
助教 瀬高 裕佳子 okunoyuatipu.ac. .jp	生理学的見地からみた呼吸リハビリテーションの検証	1. Setaka Y, Takao T, Kawamura K, Watanabe K, Yoshida R, Ohse H, Tomita K. Reliability of voluntary cough assessment using respiratory flow waveform. The Journal of Physical Therapy Science. 2020; 32: 454-458. 2. Okuno(Setaka) Y, Takahashi R, Sewa Y, Ohse H, Imura S, Tomita K. Functional electrical stimulation to the abdominal wall muscles synchronized with the expiratory flow does not include muscle fatigue. The Journal of Physical Therapy Science. 2017;29: 484-486.
	咳嗽機能向上に向けたケア/リハビリプログラムに関する研究	
	茨城県内における呼吸リハビリテーションの実態調査および地域連携の構築に関する研究	
助教 宮田 一弘 miyatakatipu.ac. .jp	臨床評価尺度の尺度特性に関する研究	1. Miyata K, Hasegawa S, Iwamoto H, Otani T, Kaizu Y, Shinohara T, Usuda S. Rasch validation and comparison of the Mini-BESTest and S-BESTest in patients with stroke. Physical Therapy, 2022; 102(4): pzab295. 2. Hayashi S, Miyata K, Takeda R, Iizuka T, Igarashi T, Usuda S. Minimal clinically important difference of the Berg Balance Scale and comfortable walking speed in patients with acute stroke: A multicenter, prospective, longitudinal study. Clinical Rehabilitation, 2022; 36(11): 1512-1523. 3. Miyata K, Tamura S, Kobayashi S, Takeda R, Iwamoto H. Berg Balance Scale is a valid measure for plan interventions and for assessing changes in balance in patients with stroke. Journal of Rehabilitation Medicine, 2022; 54: jrm00359.
	臨床的に意義のある最小変化量(MIC)を推定する研究	
	予測モデルの開発・検証	
助教 河村 健太 kawamurakatipu. ac.jp	敗血症後の新しいトレーニング手法の開発	1. Kawamura K, Kobayashi M, Tomita K. Routine hypercapnic challenge after cervical spinal hemisection affects the size of phrenic motoneurons. Scientific Reports. 2023;13905. 2. Kawamura K, Sasaki K, Sasaki SI, Tomita K. Axonal projection of the medullary expiratory neurons in the feline thoracic spinal cord. Respir Physiol Neurobiol. 2024; 104218. 3. Kawamura K, Ae K, Uematsu R, Ymaguchi K, Tomita K. Correlation of cervical-inspiratory-muscle electromyography and oxygen uptake during treadmill walking. Respir Physiol Neurobiol. 2024; 104266.
	頸髄損傷による呼吸機能障害の回復メカニズム解明	
	生理学・運動学的データによる運動強度予測モデルの開発	

指導教員と研究概要（作業療法学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 久保田 茂希 kubotashiatipu.ac.jp	上下肢装着型ロボットを使用したロボット訓練の安全性に関する研究	1. Koda M, Kubota S, Kadone H, Miura K, Funayama T, Takahashi H, Yamazaki M. Robotic rehabilitation therapy using Hybrid Assistive Limb (HAL) for patients with spinal cord lesions: a narrative review. North American Spine Society Journal (NASSJ). 2023, 14, 100209.
	上肢ロボットを使用したロボット訓練の有効性と電気生理学的評価に関する研究	2. Kubota S, Kadone H, Shimizu Y, Takahashi H, Koda M, Miura K, Watanabe H, Suzuki K, Hada Y, Sankai S, Yamazaki M. Robotic shoulder rehabilitation with the Hybrid Assistive Limb in a patient with delayed recovery after postoperative C5 palsy: a case report. Front Neurol. 2021 14;12:676352.
	脊髄損傷者に対するロボット訓練の実行可能性、有効性に関する研究	3. 久保田茂希、門根秀樹、清水如代、國府田正雄、山崎正志. 上肢機能障害に対する装着型肩関節ロボットを用いた新たなロボットリハビリテーション治療. 別冊整形外科. 南江堂. 2022、82号 Page35-40
教授 齋藤 さわ子 saitosatipu.ac.jp	作業の習得・再習得に関する研究	1. Sawako Goto, Anne G. Fisher, Wanda L, Mayberry: The assessment of motor and process skills applied cross-culturally to the Japanese. The American Journal of Occupational Therapy, 50(10),798-806,1996.
	作業の意味・形態・機能と健康・幸福の関係に関する研究	2. 齋藤さわ子、坂上真理、向井聖子、若井亜矢子、村井真由美: 施設高齢者のしたい作業とその作業をしない理由. 作業科学研究2, 18-25, 2008.
	作業を基盤とした評価法の開発とその実践における有用性の研究	3. 金野達也, 齋藤さわ子: 元プロサッカー選手がサッカー関連以外の仕事をするまでの作業的移行—仕事間における意味と機能のつながりに焦点を当てて—. 日本保健科学学会誌 2019;22:119-134
教授 白石 英樹 shiraishihatipu.ac.jp	身体障害に対する作業療法（作業活動）介入の治療的効果及び波及的効果に関する研究	1. 白石英樹, 亀山佳奈多: 対象者の「やりたい活動」をさせることへのリスク管理について—客観的反応と主観的反応の分析より—. 茨城県立医療大学紀要
	様々な定量的測定機器を用いた活動分析に関する研究	2. 白石英樹, 村木敏明, 堀田和司, 藤田好彦: 手の遠位横アーチ（第2～第5中手骨）の制限が手指巧緻動作に及ぼす影響. 日本手外科学会雑誌
	手の機能やスプリント・装具の治療的介入に関する研究	3. Hideki Shiraishi, Hiroshi yuine: Movement analysis of the distal transverse arch of the dominant hand while grasping and pinching objects: A descriptive, correlational research study. Journal of Hand Therapy, Volume 37, Issue 4, Pages 563-571, 2024 4. 白石英樹, 唯根 弘: 手の遠位横アーチにおける利き手・非利き手, 性別, 年齢での比較 調査. 日本リハビリテーション医学会雑誌 60(11) 974-982 2023年
教授 堀田 和司 hottaatipu.ac.jp	介護予防（転倒・認知症予防）に関する研究	1. 徳永智史, 堀田和司, 藤井啓介, 岩井浩一, 松田智行, 藤田好彦, 若山修一, 大藏倫博. アパシーが地域在住高齢者の身体活動量に及ぼす影響. 日本ヘルスプロモーション理学療法研究 2020;10(2):73-79
	地域包括ケアシステムにおける街づくりに関する研究	2. 堀田和司, 奥野純子, 深作貴子, 柳久子. 老老介護の現状と主介護者の介護負担感に関連する要因. 日本プライマリ・ケア連合学会誌, 33(3), 256-265
	在宅介護に関する研究	
准教授 藤田 好彦 fujitayatipu.ac.jp	介護予防事業における介入効果に関する研究	1. 藤田好彦, 堀田和司, 若山修一, 巻直樹, 中野聡子, 藪下典子, 柳久子. 3軸加速度センサーを用いた通所型介護予防事業対象高齢者における身体活動の検討. 理学療法科学 2020;35(1):95-100
	地域高齢者における身体活動に関する研究	2. 藤田好彦, 高田祐, 久保田智洋, 堀田和司, 中村茂美, 奥野純子, 柳久子. 生活活動度計(A-MES)を用いた地域在住虚弱高齢者の生活活動度の検討. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2014 37(3):212-218”
准教授 若山 修一 wakayamasatipu.ac.jp	地域高齢者における閉じこもり予防・支援に関する研究	1. 若山修一, 堀田和司, 藤田好彦, 藤井啓介, 白石英樹, 藪下典子, 巻直樹, 中野聡子, 柳久子. 地域在住高齢者における外出記録表を用いた外出支援プログラムの効果. ヘルスプロモーション理学療法研究 2020 9(4):167-173
	地域高齢者における生活機能向上プログラムの開発に関する研究	2. Shuichi Wakayama, Yoshihiko Fujita, Keisuke, Fujii, Takeshi Sasaki, Hiroshi Yuine, Kazushi Hotta. Skeletal Muscle Mass and Higher-Level Functional Capacity in Female Community-Dwelling Older Adults. International Journal of Environmental Research and Public Health 2021 18(13):6692
准教授 唯根 弘 yuinehatipu.ac.jp	上肢機能評価・介入に関する研究	1. Hiroshi Yuine, Takeshi Sasaki, Kazuhiro Miyata, Sawako Saito, Hideki Shiraishi. Minimal Important Change in Canadian Occupational Performance Measure: A Systematic Review. OTJR : occupation, participation and health (published online) 2025
	課題志向型アプローチ、生活行為向上マネジメントに関する研究	2. Hiroshi Yuine, Hirotaka Mutsuzaki, Ryoko Takeuchi, Yuichi Yoshii, Yukiyo Shimizu, Taku Yasuda, Kazushi Hotta, Hideki Shiraishi, Kaori Tachibana. Association between parasport participation and hand function in wheelchair users with chronic spinal cord disorders: a cross-sectional pilot study. BMC sports science, medicine & rehabilitation 17(1) 362-362 2025
	作業療法評価・介入のシステマティックレビュー、メタアナリシス	3. Hiroshi Yuine, Yuichi Yoshii, Kazuhiro Miyata, Hideki Shiraishi. Quantitative assessment of the course of distal radioulnar joint instability. Hand Therapy 2022 27(3):83-90

指導教員と研究概要（放射線技術科学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 石森 佳幸 ishimoriatipu.ac.jp	MRI画像評価法の最適化に関する研究	1. Ishimori Y, Monma M, Kawamura H. Wide slab is useful for routine quality control of MRI slice thickness. Radiol Phys Technol. 2018; 11(3): 345-352.
	RF火傷未然防止を目的としたMRIのRF分布測定法の開発	2. Ishimori Y, Shimanuki T, Kobayashi T, Monma M. Fast B1 mapping based on double angle method with T1 correction using standard pulse sequence. J Med Phys. 2022; 47(1): 93-98.
	既存検査法の応用・改良による、低侵襲で定量性の高い検査技術の開発	3. Y Ishimori, H Kawamura, M Monma. Feasibility of MR perfusion-weighted imaging by use of a time spatial labeling inversion pulse. Radiol Phys Technol. 2013; 6(2): 461-466.
教授 瓜倉 厚志 urikuraatipu.ac.jp	X線CTの線量と画質に関する研究	1. Takiguchi K, Urikura A, Yoshida T, et al. Computed tomographic pulmonary angiography using low tube voltage and slow contrast medium injection. Emerg Radiol. 2025 Feb 27.
	X線CTの画像解析に関する研究	2. Urikura A, Miyauchi Y, Yoshida T, et al. Patient Positioning Assistive Technology Applicable to the Existing Computed Tomography System: Estimation by Pixel Value of Scout Image. J Comput Assist Tomogr. 2023 Aug 9.
	造影CT、臨床タスクに応じた撮像技術に関する研究	3. Urikura A, Yoshida T, Matsubara K, et al. Number of computed tomography scanners and regional disparities based on population and medical resources in Japan. Radiol Phys Technol. 2023 May 18. 4. Urikura A, Miyauchi Y, Yoshida T, et al. Patient dose increase caused by posteroanterior CT localizer radiographs. Radiography (Lond). 2023 Jan 27;29(2):334-339. 5. Urikura A, Yoshida T, Nakaya Y, et al. Deep learning-based reconstruction in ultra-high-resolution computed tomography: Can image noise caused by high definition detector and the miniaturization of matrix element size be improved? Phys Med. 2021 13;81:121-129.
教授 五月女 康作 saotomekoatipu.ac.jp	医用画像診断における新規ファントム開発	1. Saotome K, Matsushita A, Matsumoto K. A brain phantom for motion-corrected PROPELLER showing image contrast and construction similar to those of in vivo MRI. Magn Reson Imag. 2017 Feb;36:32-39.
	ヒトが運動を獲得したときのダイナミクスな脳機能変化を捉える新技術の開発	2. Saotome K, Matsushita A, Eto F. Functional magnetic resonance imaging of brain activity during hybrid assistive limb intervention in a chronic spinal cord injury patient with C4 quadriplegia. J Clin Neurosci. 2022 Feb 25;99:17-21.
	放射線の正しい理解を広めるための科学的アプローチなどに係る研究	3. I Amir, Y Eguchi, K Saotome. The "GU-GU-RU" project to eliminate discrimination related to the health effects of the Fukushima nuclear accident. BMC public health 2023 Oct 19;23(1):2050.
教授 藤崎 達也 hujisakiatipu.ac.jp	放射線診断と放射線治療に利用可能なファントム開発に関する研究	1. 藤崎達也, 平岡 武, 齋藤秀敏, 他. 光の影響を考慮した水等価ファントムの試作. 日本医学放射線学会誌2002; 62: 86-91
	モンテカルロシミュレーションによる放射線治療技術の高度化に関する研究	2. 花田洗一, 布施 拓, 藤崎達也, 他. 高エネルギー電子線の入射電子エネルギースペクトルのLévy分布パラメータの決定および検証. 日本放射線技術学会雑誌2022; 78(5): 1-11
准教授 鹿野 直人 shikanoatipu.ac.jp	中性子捕捉療法(BNCT)によるがん治療への放射性医薬品の臨床・基礎利用に関する研究	1. Shikano N, Y Kanai, K Kawai, J Inatomi, DK Kim, A Ikeda, H Endou. An L-type amino acid transporter-1 specific imaging agent: structure function relationships of radioiodinated tyrosine derivatives. ASVIP 2019; 24:23-28.
	ガン、脳機能、動脈硬化、腎機能を診断目的とした放射性医薬品の基礎開発	2. Shikano N, Kanai Y, Kawai K, Ishikawa N, Endou H. Transport of technetium-99m-MAG3 via rat renal organic anion transporter 1. J Nucl Med 2004 ; 45: 80-85 3. Shikano N, Kawai K, Nakajima S, Nishii R, Flores LG II, Kubodera A, Kubota N, Ishikawa N, Saji H. Renal accumulation and excretion of radioiodinated 3-iodo- α -methyl-L-tyrosine. Ann Nucl Med 2004 ; 18: 225-232 4. Shikano N, Kanai Y, Kawai K, Inatomi J, Kim DK, Ishikawa N, Endou H. Isoform selectivity of 3-125I-iodo- α -methyl-L-tyrosine membrane transport in human L-type amino acid transporters. J Nucl Med 2003; 44: 244-246.

准教授 布施 拓 fusehatipu.ac.jp	モンテカルロシミュレーションを用いた医療における被ばく線量の推定と放射線安全管理に関する研究	1. Determination of scaling factors for a new plastic phantom at 6-15 MeV electron beams. Hiraku Fuse, Koichi Hanada, Tatsuya Fujisaki, Kenji Yasue, Fumihiro Tomita, Shinji Abe. Radiation Physics and Chemistry 193, 2022. 2. Quantification of the temperature equilibrium time of the cavity in parallel-plate-type ionization chambers by thermal analysis. Hiraku Fuse, Soma Hirota, Tatsuya Fujisaki, Shinji Abe, Kenji Yasue, Koichi Hanada, Fumihiro Tomita. Journal of Radiation Research 62(5) 841-845 2021.
	医療で用いられる放射線計測に関する研究	3. Design and characteristics of an agar additive polymer gel dosimeter. Hiraku Fuse, Satoshi Oyama, Kenji Yasue, Shotaro Ito, Tomoaki Sato, Tatsuya Fujisaki, Shinji Abe, Katsuhiko Oyama, Akiyoshi Suzuki, Tomoyuki Yoshizawa, Yuiko Kitajima Applied radiation and isotopes. 151 62-66 2019.
助教 安江 憲治 yasueke@ipu.ac.jp	DRの非線形画像に対応した画質評価法に関する研究	1. Yasue K, Fuse H, Nakazawa Y, et al. Patient-specific dose estimation considering subject thickness with an RGB-D camera: A phantom study. Radiography (Lond). 2025;31(6):103181. doi:10.1016/j.radi.2025.103181
	モンテカルロシミュレーションを用いたDRの線量最適化に関する研究	2. Fuse H, Tomita F, Yasue K, et al. Verification of dose distribution by different material properties in intraoral mold irradiation. Journal of Radiotherapy in Practice. 2023;22:e71. doi:10.1017/S1460396923000286

指導教員と研究概要（医科学領域）

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 井出 政行 idemaatipu.ac.jp	経頭蓋磁気刺激誘発脳波を用いた精神症状の評価	1. Miyauchi E, Ide M, Tachikawa H, Nemoto K, Arai T, Kawasaki M. A novel approach for assessing neuromodulation using phase-locked information measured with TMS-EEG. <i>Sci Rep.</i> 2019;9(1):428. 2. 発達障害を有する大学生及び大学院生へのショートケアプログラムの実践 — 筑波大学でのパイロットスタディー. <i>高等教育と障害</i> 第5巻第1号12-21, 2023
	精神科デイケアの効果的な施行に関する研究	
	軽度認知障害者（MCI）の就労支援に関する研究	
教授 河野 了 kawanosaatipu.ac.jp	循環器病患者の治療、臨床に関する研究	1. Ogawa Y, Shimojo N, Ishii A, Tamaoka A, Kawano S, Inoue Y. Reduced CSF orexin levels in rats and patients with systemic inflammation: a preliminary study. <i>BMC Res</i> 25, pp221. doi:10.1186/s13104-022-06121-0. 2022 2. Matsuishi Y, Mathis BJ, Hoshino H, Enomoto Y, Shimojo N, Kawano S, Sakuramoto H, Inoue Y. PERSONality, Ethical, and PROFESSIONal quality of life in Pediatric/Adult Intensive Nurses study: PERSEPRO PAIN study. <i>PLoS One</i> 7;17, e0259721, doi: 10.1371.2021 3. Ito H, Ogawa Y, Shimojo N, Kawano S. Suborexant Poisoning in a Patient with Cirrhosis and Renal Failure. <i>Cureus.</i> 13, e14329. doi: 10.7759/cureus.14329. 2021
	敗血症の病態と治療方法に関する分子生物学的検討	
	回復期リハビリテーション病院における総合診療の役割の検討	
教授 河野 豊 kohnoatipu.ac.jp	ニューロリハビリテーションに関する研究	1. Kiyoshige Ishibashi, Daisuke Ishii, Satoshi Yamamoto, Akira Noguchi, Kenya Tanamachi, Yutaka Kohno. Opposite modulations of corticospinal excitability by intermittent and continuous peripheral electrical stimulation in healthy subjects. <i>Neurosci Lett.</i> 2021. Vol. 740, 135467. 2. 河野 豊, 関口 浩文, 中島 八十一. TMSによる短潜時誘発脳波と高次脳機能障害診断. <i>臨床脳波</i> 48(11), 671-684, 2006 3. 園部 律子, 石塚 明美, 宇佐美 あき子, 森本 百合子, 河野 豊. 茨城県難病相談支援センターにおける就労相談事業の取り組みと今後の課題、難病と在宅ケア、2021, 27(8), 5-8
	経頭蓋磁気刺激による誘発脳波に関する研究	
	神経難病患者の支援に関する研究	
教授 桜井 直美 sakuraiatipu.ac.jp	地域における耐性菌サーベイランス	1. Kurita J, Uematsu T, Sakurai N, Sugawara T, Ohkusa Y, Yamaguchi N. Attenuation of antibody titer of measles and rubella virus among university students of department of healthcare providers during 2015-2018 in Japan. <i>Vaccine</i> 39(30) 4203-4209, 2021. 2. Nohara M, Sugawara T, Kurita J, akurai N, Umezawa M, Nagata N, Ohkusa Y. Study Elucidating Disinfection at Nursery Schools in Ibaraki, Japan. <i>Biocontrol science</i> 26(1) 37-41, 2021. 3. Futagawa-Saito K, Ba-Thein W, Higuchi T, Sakurai N, Fukuyasu T. Nationwide molecular surveillance of exfoliative toxigenic <i>Staphylococcus hyicus</i> on pig farms across Japan. <i>Veterinary microbiology</i> 124(3-4) 370-4, 2007. 4. Futagawa-Saito K, Ba-Thein W, Sakurai N, Fukuyasu T. Prevalence of virulence factors in <i>Staphylococcus intermedius</i> isolates from dogs and pigeons. <i>BMC veterinary research</i> 2 4-4, 2006.
	保健・医療・福祉の連携における地域包括的な感染予防対策	
教授 濱田 理人 hamadamiatipu.ac.jp	食品由来生体活性物質による代謝機能障害関連脂肪性肝炎（MASH）の分子病態制御機構の解明	1. Kawamata T, Wakimoto A, Nishikawa T, Ikezawa M, Hamada M, Inoue Y, Kulathunga K, Salim FN, Kanai M, Nishino T, Gentleman K, Liu C, Mathis BJ, Obana N, Fukuda S, Takahashi S, Taya Y, Sakai S, Hiramatsu Y. Natto consumption suppresses atherosclerotic plaque progression in LDL receptor-deficient mice transplanted with iRFP-expressing hematopoietic cells. <i>Sci Rep.</i> 2023; 13: 22469 2. Kulathunga K, Wakimoto A, Hiraishi Y, Yadav MK, Gentleman K, Warabi E, Sakasai T, Miwa Y, Mizuno S, Takahashi S, Hamada M. Albino mice with the point mutation at the tyrosinase locus show high cholesterol diet-induced NASH susceptibility. <i>Sci Rep.</i> 2021; 11: 21827 3. Yadav MK, Ishida M, Gogoleva N, Liao CW, Salim FN, Kanai M, Kuno A, Hayashi T, Shahri ZJ, Kulathunga K, Samir O, Lyu W, Olivia O, Mbanefo EC, Takahashi S, Hamada M. MAFB in macrophages regulates cold-induced neuronal density in brown adipose tissue. <i>Cell Rep.</i> 2024; 43(4): 113978
	マクロファージによるストレス応答のメカニズム解明	

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 松元 秀次 matsumotoshatip. u.ac.jp	臨床神経生理学をリハビリテーション医療へ応用した研究	1. Matsumoto S, Shimodozono M, Noma T, Miyara K, Onoda T, Ijichi R, Shigematsu T, Satone A, Okuma H, Seto M, Taketsuna M, Kaneda H, Matsuo M, Kojima S, The Rally Trial Investigators. Effect of Functional Electrical Stimulation in Convalescent Stroke Patients: A Multicenter, Randomized Controlled Trial. <i>J Clin Med.</i> 12(7):2638, 2023.
	リハビリテーションロボット開発に関する研究	2. Tamaoki S, Matsumoto S, Sasa N, Hoei T, Tojo R, Nakamura T, Aoyagi Y. Effects of sodium bicarbonate bath on the quality of sleep: An assessor-blinded, randomized, controlled, pilot clinical trial. <i>Complement Ther Clin Pract.</i> 50:101714, 2023.
	温熱療法をリハビリテーション医療へ応用した研究	3. Sasa N, Matsumoto S, Kamata G, Hoei T, Aoyagi Y. Development of a Functional Bridge Test for Screening Impairments and Disabilities in Hemiplegic Patients with Acute Stroke while on the Bed. <i>Prog Rehabil Med.</i> 7:20220059, 2022.
教授 六崎 裕高 mutsuzakiatipu. ac.jp	変形性膝関節症における歩行解析・CT-FEM・筋発揮張力を融合させた新しい病態評価方法と病期進行シミュレーション方法の開発	1. Watanabe K, Mutsuzaki H, Fukaya T, Aoyama T, Nakajima S, Sekine N, Mori K. Development of a knee joint CT-FEM model in load response of the stance phase during walking using muscle exertion, motion analysis, and ground reaction force data. <i>Medicina (Kaunas).</i> 2020; 56(2): 56
	運動器疾患（変形性関節症、小児脳性麻痺、脊髄損傷等）におけるロボットリハビリテーション介入後の安全性・有効性評価	2. Koseki K, Mutsuzaki H, Yoshikawa K, Iwai K, Hashizume Y, Nakazawa R, Kohno Y. Early recovery of walking ability in patients after total knee arthroplasty using a hip-wearable exoskeleton robot: A case-controlled clinical trial. <i>Geriatr Orthop Surg Rehabil.</i> 2021; 12: 21514593211027675
	障がい者スポーツにおけるMRIと動作解析を用いた上肢疾患発生メカニズムの解明と治療・リハビリテーションの開発	3. Sakai M, Mutsuzaki T, Shimizu Y, Okamoto Y, Yatabe K, Muraki I, Nakajima K. Characteristic MRI findings of shoulder, elbow, and wrist joints in wheelchair user. <i>Skeletal Radiol.</i> 2021; 50(1):171-178
教授 山口 雅之 yamaguchimaatip. u.ac.jp	サルコペニア診断機器開発に資する筋肉の質の可視化の研究	1. Makihara K, Yamaguchi M, <i>et al.</i> New Cluster Analysis Method for Quantitative Dynamic Contrast-Enhanced MRI Assessing Tumor Heterogeneity Induced by a Tumor-Microenvironmental Ameliorator (E7130) Treatment to a Breast Cancer Mouse Model. <i>J Magn Reson Imaging;</i> 56: 1820-1831, 2022
	被ばくのない嚥下造影法の開発	2. Doan TKD, Umezawa M, Ikeda K, Ohnuki K, Akatsuka M, Okubo K, Kamimura M, Yamaguchi M, <i>et al.</i> Influence of Carboxyl Group Ratios on the Design of Breast Cancer Targeting Bimodal MR/NIR-II Imaging Probe from PLGA@Gd-DOTA@PEG Micelles Conjugating Herceptin. <i>ACS Appl Bio Mater.</i> 6(7): 2644-2650, 2023
	MR I 顕微鏡の開発	3. Makihara K, Kunieda K, Yamada S, Yamaguchi M, <i>et al.</i> High-resolution MRI for human embryos with isotropic 10 μ m resolution at 9.4 T. <i>J Magn Reson</i> 355 DOI10.1016/j.jmr.2023.107545, 2023 4. Yamaguchi M, <i>et al.</i> High Resolution MR Imaging of the Testis Using a Small Radiofrequency Coil. <i>Magn Reson Med Sci;</i> 22: 127-136, 2023
教授 内田 敦子 uchidaatatipu.a c.jp	末梢神経障害で特徴的にみられる細胞骨格蛋白の動態解析、および新素材、治療法開発への応用	1. Uchida A, Peng J and Brown A. Regulation of neurofilament length and transport by a dynamic cycle of phospho-dependent polymer severing and annealing. <i>Mol Biol Cell (ASCB)</i> 2023 Jun 1:34(7):ar68.
	神経損傷時における細胞骨格蛋白の細胞内動態可視化技術の開発、および臨床分野での利用法の検討	2. Stone EJ, Uchida A, and Brown A. Charcot-Marie-Tooth Disease Type 2E/1F Mutant Neurofilament proteins assemble into Neurofilaments. <i>Cytoskeleton (Hoboken)</i> 2019 Jul;76(7-8):423-439 3. Walker CL*, Uchida A*, Li Y, Trivedi N, Fenn JD, Monsma PC, Lariviere RC, Julien JP, Jung P, Brown A. Local Acceleration of Neurofilament Transport at Nodes of Ranvier. <i>J Neuroscience</i> 2019 39(4):663-677 4. Uchida A, Monsma P, Fenn JD, Brown A, Live-cell imaging of neurofilament transport in cultured neurons. <i>Methods Cell Biol.</i> 2016;131:21-90
	細胞骨格蛋白に関連する軸索変性疾患の発症機構、ならびにバイオマーカーの探索	5. Uchida A, Çolakoglu G, Wang L, Monsma PC and Brown. A Dynamic regulation of neurofilament length by a cycle of severing and end-to-end annealing. <i>Proc Natl Acad Sci USA</i> 2013 110(29):E2696-705

職名・氏名・連絡先	研究指導テーマ	関連研究業績
教授 佐藤 純 satoujatipu.ac.jp	援助要請・自己援助志向性に関する研究	1. 水野 雅之・菅原 大地・谷 秀次郎・吹谷 和代・佐藤 純 2021 若手の理学療法士・作業療法士のバーンアウト傾向とセルフ・コンパッションの関連 心理学研究, 92, 197-203. 2. 軽部雄輝・佐藤純・杉江征 2015 大学生の就職活動維持過程尺度の作成 教育心理学研究, 63, 386-400.
	青年期のキャリア発達過程に関する研究	
	死の自己決定に関する研究	
教授 大槻 曜生 otsukiak@ipu.ac.jp	伸長刺激による末梢循環の適応の解明	1. Okamura M, Fujimori M, Otsuki A, et al. Patients' perceptions of patient-centered communication with healthcare providers and associated factors in Japan - The INFORM Study 2020. Patient Educ Couns 122 :108170, 2024. 2. Otsuki A et al. A nationally representative cross-sectional survey on health information access for consumers in Japan: A protocol for the INFORM Study. World Medical & Health Policy 14(2):225-275, 2022. 3. Otsuki A et al. Gender differences in muscle blood volume reduction in the tibialis anterior muscle during passive plantarflexion. Clin Physiol Funct Imaging 36(5):421-425, 2016. 4. Otsuki A et al. Muscle Oxygenation and Fascicle Length During Passive Muscle Stretching in Ballet-Trained Subjects. Int J Sports Med 32(7):496-502, 2011.
	月経周期に伴う循環調節の検討	
	疾患横断的予防方法の普及研究	
	患者-医療者間コミュニケーションを促進する情報の開発	
准教授 中山 純子 nakayamaatipu.ac.jp	小児けいれん性疾患における遺伝学的研究	1. Nakayama J et al. Significant evidence for linkage of febrile seizures to chromosome 5q14-q15. Hum Mol Genet 2000;9:87-91 2. Nakayama J et al. A nonsense mutation of the MASS1 gene in a family with febrile and afebrile seizures. Ann Neurol 2002;52:654-657 3. Nakayama J et al. A Japanese case of ichthyosis follicularis with atrichia and photophobia syndrome with an MBTPS2 mutation. 2011;56:250-252 4. Nakayama J et al. Monozygotic twins with de novo ZIC2 gene mutations discordant for the type of holoprosencephaly. Neurology 2016;86:1456-1458
	小児遺伝性疾患患者に対するリハビリテーションの研究	
准教授 膳法 浩史 zenpouhi@ipu.ac.jp	骨格筋の機能低下（サルコペニア）・スポーツ傷害のメカニズム解明	1 Zempo H et al. A pro-diabetogenic mtDNA polymorphism in the mitochondrial-derived peptide, MOTS-c. Aging (Albany NY). 2021 Jan 19;13(2):1692-1717 2. Miyamoto-Mikami E, Zempo H, et al. Genome-Wide Association Study on Muscle Stiffness Identified Novel Locus for Predisposition to Muscle Strain Injury. Med Sci Sports Exerc. 2025; 57(6): 1202-1211. 3. Guilherme JPLF, Semenova EA, Kikuchi N, Homma H, Kozuma A, Saito M, Zempo H, et al. Identification of Genomic Predictors of Muscle Fiber Size. Cells. 2024; 13(14): 1212. 4. Kumagai H, Kim SJ, Miller B, Zempo H, et al. MOTS-c modulates skeletal muscle function by directly binding and activating CK2. iScience. 2024; 27(11): 111212.
	大規模データ×オミクス解析による疾患予防研究	
講師 大坂 佳子 osakayoatipu.ac.jp	硬膜外麻酔・神経ブロックの安全向上に関する研究	1. Osaka Y, Yamashita M. Intervertebral epidural anesthesia in 2050 infants and children using the drip and tube method. Reg Anesth Pain Med. 2003, 28:103-7 2. Yamashita S, Takahashi S, Osaka Y, Fujikura K, Tabata K, Tanaka M. Efficacy of the transillumination method for appropriate tracheal tube placement in small children: a randomized controlled trial. J Clin Anesth. 2015, 27:12-6
	気道管理における多種デバイスの患者状態別の適応と工夫の検討	

出願・受験・その他に関する問い合わせ先

茨城県立医療大学 教務課

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669 番 2

電 話 (029)840-2111 (直通)

取扱時間：月～金 9：00～17：00

(祝休日及び12月29日～1月3日を除く)